

## 全国基礎自治体で実施されている父親育児支援好事例の調査結果

研究分担者 高木 悦子(帝京科学大学医療科学部看護学科・准教授)  
小崎 恭弘(大阪教育大学教育学部教員養成課程家政教育部門  
・教授)

### 研究要旨

**背景:** 2020年に実施した全国基礎自治体の母子保健担当部署に対する調査において、主な対象を父親とする育児支援事業を実施していた自治体は、全回答数837自治体の6.6%にあたる54の自治体であった。父親への育児支援については前例が少なく、事業として立ち上げるのは困難である。しかし、実施していなかった自治体のうち70%が実施の必要性を感じていた。そこで本調査では、父親育児支援事業を実施した自治体に対し、その詳細を聞き取り調査によって明らかにし、実施に至っていない自治体への情報提供の基礎的資料とすることを目的とした。

**方法:** 2020年12月から2021年2月に当研究班で実施した「全国基礎自治体における父親育児支援への調査」において、父親を主な対象者として事業を実施したと回答した54自治体のうち、調査協力に同意を得た自治体の母子保健担当部署の課長レベルの職員を対象にヒアリング調査を実施した。

**結果:** ヒアリング調査は21の自治体から回答を得た。事業の目的は父親育児支援、母親育児支援、子育て支援、共働き夫婦育児支援、男性健康・食育健康支援、が挙げられ、実施時期は産前の男性を対象とした事業11、育児期は10であり、自治体ごとに工夫された内容であり参加者の評価も良好であった。

**考察:** 父親への育児支援は明確な法的根拠に乏しく事業化しにくいと考えられ、実施の有無は都道府県の推奨の度合いや地域特性などから得られた母子保健担当部署職員の考え方や職場風土が影響していると考えられる。他部署及び多機関との連携を含め、効果的な支援策実施のために、父親のニーズを取り入れ全国的な質の担保を考慮したモデル事業の提案が望まれる。

**結論:** 父親を主な対象とする育児支援を実施している自治体では、前例のないなかでそれぞれ工夫していた。しかし全体の傾向として、母親や育児を理解するための内容が多く、父親の育児を支援する内容には至っていないと考えられる。

**次年度への課題:** コロナ禍での調査であったため、事業の中止や開始を延期した事業についての情報を得られず、自治体での父親への育児支援の把握が不十分であった。父親へのニーズ調査を含む更なる情報収集をもとに考案された、自治体で実現可能な父親への育児支援事業モデルの提示が必要である。

### 研究協力者:

阿川 勇太(兵庫医療大学看護学部・助教)

させ、乳幼児死亡率などを劇的に減少させてきた。しかし、一方で児童虐待とそれに関わる母親の育児期のうつ病罹患率が大きな問題となり、2000年に児童虐待防止法の施行以来、母子保健は育児支援を大きな役割として担うようになった。高度経済成長に伴ってすでに核家族

### A. 研究目的

わが国の母子保健事業は、戦後から1990年代にかけて基本的な地域母子保健事業を発展

化が定着した育児環境の中で、最も身近な育児の支援者として、父親の育児参加が奨励されてきた。しかし、育児期の男性も仕事や育児のストレスを感じ、産後うつに罹患し、家事・育児に関わる困難を抱える場合が少なくないこと<sup>123)</sup>、実父による乳幼児虐待の報告が増加傾向にあること<sup>4)</sup>から、父親も母親と同様に支援される立場にあることが指摘されている<sup>5)</sup>。

そこで当研究班において、2020年12月から2021年2月に全国基礎自治体の母子保健担当部署の課長クラスの職員を対象としたアンケート調査を実施した。結果の詳細はすでに昨年度の報告書に記載したが、837自治体からの返信のうち、父親を主な対象として事業を実施していた自治体は、全回答の6.6%にあたる54自治体であった。しかし、実施のなかった自治体の70%が必要性を感じており、実施していないもっとも多い理由が「父親のニーズが不明」であった。「方法が分からない」も19.6%を占め、父親へのニーズの把握や育児支援モデルの提示が必要であることが明らかとなった。現在実施されている支援事業を提示することで、実施可能な支援のモデルを提示することができる。

本調査では、昨年度の調査で事業を実施していると回答があった54自治体に対し、父親を主な対象とする育児支援事業を検討している自治体への事業モデルの提示を目的として、調査協力の同意を得られた21自治体へのヒアリング調査を実施したのでその詳細について報告する。

## B. 研究方法

### 調査対象

2020年12月から2021年2月に当研究班で全国1,741自治体の母子保健事業担当部署の課長クラスを対象に実施した「全国基礎自治体における父親育児支援実施状況」で「主な対象を母親ではなく父親とした育児支援を実施した」と回答した54自治体を調査対象とした。それぞれの自治体担当者に対し、調査員が事例報告用に作成したパワーポイントのフォーマットをメール送信し、必要事項を記入してもらった。

内容は、スライド4枚を用いて1「事業名」「実施時期」「スローガンや内容を簡潔に表す記述」、2「地勢」「地域の概況」「事業の概要」、3「取り組みの経緯」「2019年の取り組みの概況」、4「工夫点」「課題」「取り組みの評価」の項目について、各項目を記入するパワーポイントのひな型を作成し、各自治体担当者に作成をお願いし、さらにヒアリングによって情報を追加した。

## C. 研究結果

### 1. 調査対象自治体の特徴と事業実施の経緯

支援を実施した自治体の特徴および事業概要を表1に示した。各自治体が「課題」で挙げた文章から頻出単語を抽出し、図1に示した。さらに、各基礎自治体での実施内容の詳細は別添資料に示した。

人口規模15,297人から2,326,589人、年間出生数76人から17,740人（平均1,476.3人）、高齢化率19.2%から37.6%（平均30.1%）であった。父親支援に関する事業は高齢化率が高い自治体でも実施されていた。事業の目的は父親育児支援が12自治体であり、支援時期別には妊娠期の支援を11自治体、育児期の支援を10自治体で実施していた。妊娠期の対象は産前教室では妊婦とそのパートナー、育児期は父親と子ども、両親と子ども、祖父母を含めた家族全員など、自治体の考え方や目的によって様々であった。実務担当の職種は保健師12、助産師8、保育士3、管理栄養士3、外部委託では事務職員のみ、また、対象者が多い愛知県名古屋市では助産師会に委託していた。

事業を実施して「課題」で挙げられた単語では「参加」が最も多かった。参加者が多い事業、参加者の獲得に苦慮する事業など、多くの自治体で「参加」に関することが課題であった。

父親への支援事業を始めた経緯については、多くの場合、母子保健担当職員が日常業務から保健師などの実務者がその必要性を感じて事業化していた。母親を含めた家族参加事業から、参加希望者の要望を取り入れて父親と子どもに限定した事業（北海道江別市）、委託事業での実施で参加者が少なかったため直営に変更

(北海道苫小牧市、兵庫県西脇市)、土曜・日曜の開催に変更(群馬県富岡市、山梨県上野原市、愛知県北名古屋市)、対象者へのニーズ調査をもとに事業化(青森県平川市)、大学との連携を取り入れながら PDCA サイクルにより適宜変更を加えながら実施(福岡県福岡市城南区)するなど、地域の状況により様々であった。埼玉県毛呂山町のみ、埼玉県の研修をもとに事業を展開していたが、参加者を確保することも、職員の努力によってなされていた。参加者の評価はすべての事業で高評価であったが、参加者が増える事業と参加者集めに苦慮する事業があった。

## 2. 事業の内容について

工夫した点として、父親が参加しやすい土曜または日曜の開催が挙げられた自治体が多かった。そのほかの工夫した点では、病院との連携によって地域での支援内容を精錬する(北海道函館市)、住民へのアンケート調査をもとにしたプログラム作成(青森県平川市)、専門家ではなく経験者による支援提供(群馬県富岡市)、保育園と幼稚園の協力のもと、成人の特定保健指導と合わせた子どもとのアクティビティ(千葉県印西市)、父親目線で発信する情報提供を主とした講座(福井県坂井市)などが挙げられていた。人口規模が大きい名古屋市では、参加希望者数が増加したため、共働き夫婦への個別指導の開催回数を増やし、助産師会への委託事業としていた。また、新潟県新発田市、三重県四日市市では NPO 法人であるファザリング・ジャパンとの協働による事業展開を実施していたが、その内容は父子健康手帳の配布、親子のアクティビティなどのイベント開催といった異なる対象と実施内容であった。

## 3. 父親への育児支援事業の評価について

今回調査を実施したすべての事業で、参加者へのアンケート調査を実施して事業評価を行っていた。参加者からの評価は概ね良好であったが、参加者の減少や集客の困難が一部で挙げられた。父子手帳作成と配布を実施している新

潟県新発田市では、アンケートの返信者から、「父親になる実感がわいた」「母と協力して育児していきます」といった感想があった一方で、ほとんどの父親が「配布時のみ読んだ」と回答しており、定期的に読んでいると回答した父親は 14%に止まった。

## D. 考察

### 1. 地域行政で実施する父親への育児支援

今回の事例集は、父親への育児支援事業の実施が希少ななかで得られたものである。妊娠期・育児期、また単発の事業、シリーズで実施するものなど、実施内容は多岐に渡っている。母子保健事業で見えてきたニーズや人材を含めたその地域の「強み」を活かした内容を、工夫して実施している様子が伺える。父親が楽しんで参加する企画が多く実施されており、母親を経由しなくても、父親が自ら子どもに接していけるような企画を各々工夫して実施していた。

地域における父親への育児支援の実施は、母子保健事業を実施している担当課で実施されているもの、子育て支援課で実施されているものなど、自治体によって様々であった。しかし、母親と父親の違いがあるものの支援の受け手は一人の乳幼児の親であり、子育て世代の多忙な日常を考慮すると、一元化によって両親が容易にその支援の実施に遭遇できる情報発信や事業の設定が必要であろう。また、部署毎に実施している育児支援を他部署でも情報共有することで、要支援家庭の抽出と効率的かつ効果的な継続支援を可能にすると考えられる。法律に基づいて、他の自治体事業と同様に縦割りの組織によって母子保健事業もその具体的な事業が実施されていることが多いが、事業策定が容易である一方で育児支援の全体像が捉えにくい。渡辺<sup>9)</sup>は、自治体における子ども行政の展開において、多機関の連携が有効であることを、静岡県掛川市と長崎県佐世保市の幼保の一元化の例を挙げて報告している。Guy によれば多機関連携 (interagency collaboration) は、行政機関の分担管理を前提としつつ、関連する行政

機関を結び付け、現場で提供される公共サービスの質を高めるため有効であると報告されている<sup>7)</sup>。父親の産後うつ対策、虐待予防を目的とする場合は、地域で得られにくい父親の情報を得ることも必要であり、男女雇用均等や次世代育成にも影響する事柄であるため、他部署との連携、さらに職域や医療との連携は母親への支援以上に必要かもしれない。

地域の母子保健で実施されているプログラムの内容は、妊娠中は妊娠出産を迎えた母親、女性への理解、子どもとのアクティビティなどで父親が子どもと楽しく過ごす機会を与え、家庭でも楽しみながら育児を行うスキルを体験的に学ぶ機会になっている。しかし、乳幼児健診のような事業と異なり、自由意志での参加であるため、時間に比較的余裕のある父親、育児への関心が高い父親の参加率が高くなっていると考えられる。課題の記述から抽出された単語も「参加」であり、参加者の調整も事業策定の困難要因になっていると考えられる。さらに、父親を主な対象者とする事業の内容について、岡田ら<sup>8)</sup>は、多くの市町村で両親に向けた育児支援事業が実施されているが、母親に関する内容に偏していることを指摘している。今回のヒアリング調査から得られた内容も同様の傾向にあった。表1に示したように、目的を「父親への育児支援」としていても、内容は「妊娠や育児への理解」「子どもと関わる機会を得る」ことを「ねらい」にしており、元気な父親が育児に関わることが主な目的となっているようであった。父親の産後うつ対策や虐待予防を目的とする事業はなく、父親の顕在的、潜在的ニーズを捉えた内容になっていない可能性がある。父親を育児に巻き込むこれまでの支援に加え、育児に何らかの理由で関わろうとしない父親や、地域との関りを拒む父親の家庭がハイリスクとして変化していくことも考慮した支援の実施が必要である。育児への責任の所在が母親ほど明確ではないために、父親の育児に対する意識は個人差も大きいと考えられ、今後は父親に対する調査も必要である。

## 2. 社会的ニーズとしての父親への育児参加

コロナ禍において自宅での滞在時間が増えた多くの子育て中の両親にとって、これまで以上に家族関係の在り方を突き付けられることとなった。育児中の両親の親の世代では、職場での役割遂行が重視され、育児に直接の責任を問われなかった男性は、家族との関わりを希薄にするという選択をすることが多かった。核家族化、共働き世帯の増加、育児の常識の変化から、子どもの日常に関わる大人が減少し、社会全体としての子育て機能が脆弱になってきている<sup>9)</sup>。家庭での父親役割を選択しなかった、またはできなかった中高年世代の父親は妻や子どもとの人間関係に問題を抱え<sup>10)</sup>、老年期の地域での人間関係に影響していることも考えられる。

家族をはじめとする地域での人間関係構築の出発点として、ライフコースヘルスケアの観点からも育児期は重要なポイントであると言える<sup>11)12)</sup>。世代間での伝承が希薄となり、ロールモデルを持たない多くの父親への育児支援は、これまでになく必要な時代であり、自治体や職域、子育て支援や保育など、父親の関わる様々な場所を通じて提供されることが望ましい。近年推奨されている子育て支援地域包括や日本版ネウボラでも父親への支援は明確に示されていない<sup>13)</sup>。父親への育児支援プログラムは、支援を提供する側が父親を知り、父親自身を支援するという新しい視点で作成される必要がある。今後、モデル事業や、さらに多くの好事例が提示されることが望ましい。

## E. 結論

今回ヒアリングを実施した自治体では産前教室と育児期のアクティビティを取り入れた事業を実施していた。母親への理解や、子どもとのアクティビティを通して父と子のふれあいの場を提供するものが多かった。今後、父親へのニーズ調査を実施し、父親の産後うつや虐待防止を視野にいれた支援のモデルの提示が望まれる。

## 謝辞

コロナ感染拡大が継続し、業務多忙の中、ご協力をいただいた22自治体の職員の方々に心より感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) Bibha D., Kato T., Kachi Y., et al. Prevalence of and associated factors for psychological distress among single fathers in Japan. 2021. J Epidemiol. doi: 10.2188/jea.JE20210273.
- 2) Bibha D., Kato T., Ochi M., et al. Association of child's disability status with father's health outcomes in Japan. SSM Popul Health. 2021. Oct 23;16:100951.
- 3) 竹原健二、須藤茉衣子. 父親の産後うつ. 小児保健研究. 2012;71(3):343-349.
- 4) 厚生労働省. 児童虐待の状況等. [https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/6\\_1.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/6_1.pdf) (2022 5月1日アクセス)
- 5) 高木悦子、小崎恭弘. 育児に積極的に関わる父親の心身の健康度に関連する要因. 母性衛生. 2021;62(2):301-308.
- 6) 渡辺恵子. 全国自治体の子育て支援施策に関する調査 報告書(概要版). 2019. 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)国立教育政策研究所紀要.第 148 集.7-24.
- 7) Peters, B. Guy (2015) Pursuing Horizontal Management: The Politics of Public Sector Coordination, University Press of Kansas. p66.
- 8) 岡田みゆき、伊藤葉子、一見真理子. 地方公共団体における父親の子育て支援. 日本家政学会誌. 2014;65(10):587-597.
- 9) 小崎恭弘、田辺省吾、松本しのぶ. 家族・働き方・社会を変える父親への子育て支援.2017.ミネルヴァ書房.京都市.p8-12.
- 10) 宮本健太. Legal mall. 父親が嫌い！父親との関係について悩む人が知りたい6つのこと. <https://best-legal.jp/i-hate-my-father-44411/> (2022 4月29日アクセス)
- 11) 松宮朝.地域社会と男性の孤立をめぐって - 地方自治体の地域福祉調査から -.2020

愛知県立大学教育福祉学部論集 第69号 45-56.

- 12) 小池高史. 高齢者の孤立は男性問題か?. 2019. 公益財団法人長寿科学振興財団 健康長寿ネット. <https://www.tyojyu.or.jp/net/topics/tokushu/koreisha-koritsu/koreisha-koritsu-danseimondai.html> (2022 5月1日アクセス)
- 13) 大澤絵里、越智真奈美. 市町村における地域の児童虐待予防と対応のしくみの課題と展望 — 公衆衛生学アプローチと包括ケアシステムとの融合—. 保健医療科学. 2021;70(4):385-393.

## F. 研究発表

1. 論文発表  
高木悦子、阿川勇太、小崎恭弘. 調査報告. 全国自治体で実施されている父親への育児支援の現状. 保健師ジャーナル (in press) .
2. 学会発表  
1) 高木悦子、小崎恭弘、阿川勇太、竹原健二. 演題名：全国基礎自治体に対する父親支援実施状況調査. 第80回日本公衆衛生学会(東京). 2021.  
2) 高木悦子、小崎恭弘、阿川勇太. コロナ禍における全国自治体での母子保健事業および父親支援の実施状況の調査. 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2022.

## G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

表1. 自治体の特徴

|    | 自治体名     | 事業目的              | 年間出生数(人) | 総人口(人)  | 高齢化率(%) | 概要・対象               | 担当課                          | 実施者             |
|----|----------|-------------------|----------|---------|---------|---------------------|------------------------------|-----------------|
| 1  | 北海道江別市   | 父親育児参加            | 659      | 119,667 | 31.3    | 日曜広場、父親支援講習会        | 子育て支援センター                    | 保育士3            |
| 2  | 北海道函館市   | 妊婦(母親)支援          | 1305     | 251,084 | 36      | ブレママ・プレババ教室         | 子ども未来部<br>母子保健課              | 保健師、看護師、心理士     |
| 3  | 北海道苫小牧市  | 子育て支援             | 1152     | 169,800 | 29.6    | 子どもと父親の遊びの場         | 健康子ども部<br>健康支援課              | 保健師             |
| 4  | 青森県平川市   | 父親育児支援(中身は妊婦支援)   | 166      | 30,569  | 31.4    | 子どもと父親(両親)の遊びの場     | 子育て支援課<br>(子育て世代包括支援)        | 保健師、助産師         |
| 5  | 群馬県富岡市   | 父親育児支援            | 218      | 47,220  | 36.6    | 両親学級(第一子妊婦のパートナー)   | 健康推進課                        | 助産師             |
| 6  | 千葉県印西市   | 30-50 男性健康・食育健康推進 | 827      | 105,617 | 22.4    | 子どもと父親の運動、クッキング     | 健康こども部<br>健康増進課<br>健康支援係     | 保健師、理学療法士、管理栄養士 |
| 7  | 埼玉県毛呂山町  | 父親育児支援(研修から策定)    | 110      | 33,100  | 34.8    | 子どもとの遊びの場の提供 祖父母も対象 | 子ども課                         | 子育て支援員          |
| 8  | 新潟県新発田市  | 父親育児参加            | 593      | 96,374  | 32      | 父子手帳作成と配布(FJと協働)    |                              |                 |
| 9  | 長野県小諸市   | 母親育児支援            | 268      | 41,832  | 32.2    | 両親学級                | 健康づくり課<br>保健予防係              | 助産師、保健師         |
| 10 | 福井県坂井市   | 父親育児支援            | 570      | 90,455  | 28.8    | 母親向け、父親向け、それぞれ3回    | 健康福祉部<br>健康増進課               | 保健師・管理栄養士       |
| 11 | 山梨県市川三郷町 | 母親育児支援            | 87       | 15,297  | 37.6    | 両親学級                | いきいき健康課                      | 保健師、助産師         |
| 12 | 山梨県上野原市  | 母親支援              | 76       | 22,518  | 37.1    | 4回の産前教室のうちの1階       | 健康福祉部<br>子育て保健課              | 保健師             |
| 13 | 神奈川県大和市  | 父親育児参加            | 1899     | 240,812 | 23.9    | 初産婦とその夫、乳児を育てる夫婦。   | 大和市子ども部<br>すくすく子育て課<br>母子保健係 | 保健師、外部講師        |

|    |           |           |          |           |        |                        |                         |  |
|----|-----------|-----------|----------|-----------|--------|------------------------|-------------------------|--|
| 14 | 愛知県北名古屋市  | 母親育児支援    | 799      | 86,197    | 24     | パパママ教室 妊婦と育児           | 妊娠編：健康課 育児編：健康課、児童課     | (妊娠編) 保健師、保育士、臨床心理士、保育士助産師、管理栄養士、(育児編) 保健師、保育士 |
| 15 | 愛知県名古屋市   | 共働き夫婦育児支援 | 17740    | 2,326,589 | 25.1   | 共働きカップルのためのパパママ教室      | 名古屋市子ども青少年局子育て支援部子育て支援課 | 愛知県助産師会に委託                                     |
| 16 | 愛知県高浜市    | 父親育児支援    | 398      | 49,257    | 19.15  | 4か月健診に参加した子と父親         | 高浜市福祉部健康推進グループ          | 助産師  |
| 17 | 岐阜県恵那市    | 母親育児支援    | 235      | 48,584    | 32.6   | 両親学級                   | 子育て支援課                  | 保健師、助産師、事務職                                    |
| 18 | 三重県名張市    | 父親育児支援    | 472      | 77,068    | 33.1   | 父親と子 月1回遊び・仲間づくり       | 名張市子ども支援センターかがやき        | 保育士3   |
| 19 | 三重県四日市市   | 父親育児支援    | 2287     | 310,319   | 25.8   | 4歳までの子を持つ父親 子育てマイスター育成 | 四日市子ども未来部               | 事務職1名  |
| 20 | 兵庫県西脇市    | 母親支援      | 210      | 39,432    | 33.6   | 3世代パパママ育て事業            | 西脇市年経営部茜が丘複合施設          | 一般事務職  |
| 21 | 福岡県福岡市城南区 | 父親育児支援    | 931      | 126,238   | 25.3   | 父親になる予定の方と、1歳未満の子を持つ父親 | 保健福祉センター地域保健福祉課         | 保健師  |
|    | 平均値       |           | 1476.286 | 206,097   | 30.112 |                        |                         |  |

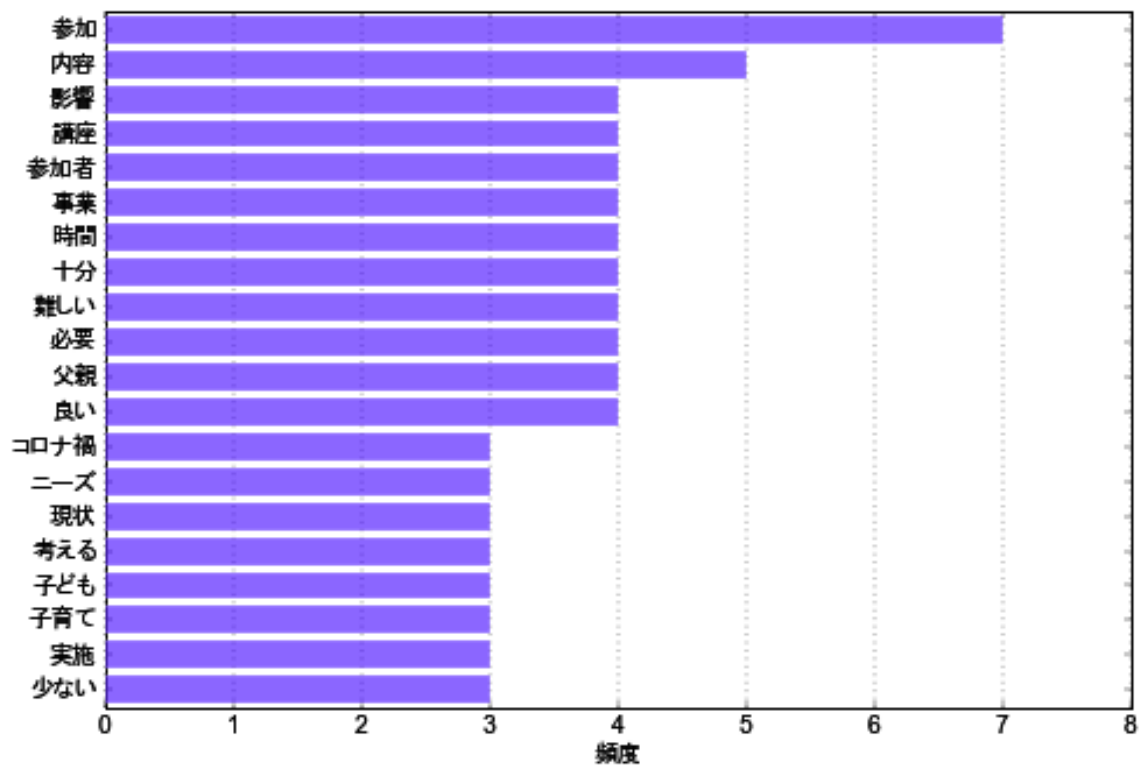
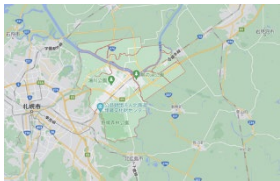


図1. 事業の「課題」に関する記述での頻出単語



別添資料1. ヒアリングによる21自治体の父親支援事業に関する事例集

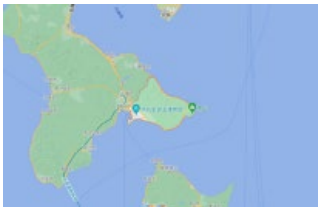
1. 北海道江別市

|   |  |
|---|--|
| <p>【面積】 187.6 km<sup>2</sup></p> <p>地域の概要</p> <p>総人口世帯数：119,667人 58,960世帯（令和3年8月1日）</p> <p>高齢化率：65歳以上31.3%（令和3年8月1日）</p>  | <p>地域の特徴</p>  |
| <p>事業概況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業開始：「日曜ひろば」2009年より<br/>「お父さんと子どものための日曜ひろば」 2019年度より</li> <li>対象：就学前の子どもを持つ父親</li> <li>実施頻度：「日曜ひろば」年5回<br/>「お父さんと子どものための日曜ひろば」年2回 「父親支援講習会」年1回</li> <li>募集人数：（特に制限はなし）</li> <li>担当部署：子育て支援センターすくすく</li> <li>担当者 職種 人数：子育て支援センター職員（保育士） 3名</li> </ul> |  |
| <p>取り組みの経過</p> <p>平日は仕事等で参加しづらい父親の利用促進のため、2009年より「日曜ひろば」（日曜日のひろば開放）を開催。現在年5～6回開催している。「日曜ひろば」では子どもと母親と共に来館する父親が多く、母親のリフレッシュのために父親一人で子どもを連れてくる姿も見られた。更に父親が参加しやすいよう2019年度より、父親と子どもに限定したひろばの開放「お父さんと子どものための日曜ひろば」を定期的（年2回）に開催するようになった。また、父親の子育て知識啓発を目的として、年1回講習会等をおこなっている。</p>                              |  |
| <p>2019年度 取り組み内容（実施状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「日曜ひろば」<br/>利用者合計：72組176人中、父親40人参加。（年5回開催）</li> <li>「お父さんと子どものための日曜ひろば」<br/>利用者合計：30組65名（年2回開催）</li> <li>「父親支援講習会 お父さんといっしょにスポーツしよう」対象は父親と子ども。<br/>講師を招いて開催 利用者合計：14組28名</li> </ul>   |  |
| <p>工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>父親が参加しやすい曜日の設定</li> </ul>   |  |
| <p>課題</p> <p>・子どもと共に自由に参加できる（遊べる）場を設定することで、父親の参加意識は上がっているが、父親向けの講習会など、学びの場になると参加率は低くなる。<br/>共に遊ぶ場の設定だけでなく、父親の学びの場になる機会をどのように作っていくのがよいか</p> <p>課題</p>  |  |
| <p>取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日曜日のひろば開放で、普段子育て支援センターに来れない父親が子どもと過ごすきっかけになっている。</li> </ul>  |  |

対象を父親に限定したことで父親と子どもが気軽に遊びに来れる場になっていた。  
父と子が遊ぶだけでなく父同士が会話する姿が見られるようになるなど、父親の意識の変化も感じられる。

- ・「お父さんと子どものための日曜ひろば」アンケートより  
【感想】「とても楽しかった」「また参加したい」が多数  
【参加の動機】「妻から勧められた」が多数。他「妻に時間を作ってあげたかった」「父親だけなら過ごしやすかった」など
- ・「お父さんといっしょにスポーツをしよう」アンケートより  
【感想】「子どもが楽しそうに参加しているのを見て、自分も楽しめた」「日曜日で参加しやすかった」「いろいろな遊びを体験でき良かった」など

## 2. 北海道函館市

|   |   |
|---|---|
| 地域の特徴   |   |
| <p>【面積】 677.87㎢(令和3年4月1日現在)</p> <p>【地勢】 渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接している。</p> <p>(最新の統計 各項目年月日記入)</p> <p>総人口世帯数：140、972世帯 (令和3年3月末)</p> <p>高齢化率：36.0% (令和3年3月末)</p> <p>出生数：1、305名 (令和元年)</p> <p>合計特殊出生率：1.18 (令和元年)</p> |  |
| 事業概況  |   |
| <p>事業開始：平成15年</p> <p>対象：市内在住の妊娠12週から35週までの初妊婦とその夫・家族</p> <p>実施頻度：年6回</p> <p>募集人数(1回あたり)：15組(感染対策上、通常30組を縮小)</p> <p>担当部署：子ども未来部母子保健課</p> <p>担当者：保健師4名、看護師2名、管理栄養士1名、心理士1名 (令和3年度)</p>  |   |
| 取り組みの経過   |   |
| <p>核家族化や地域連帯意識の希薄化など、妊婦を取り巻く環境が変化している現状のなかで、妊婦を理解し支えるために、夫やその他の家族を対象として、適切な情報の提供、父親の育児参加の啓発が必要と考え事業を開始した。</p>   |   |
| 2019年度 取り組み内容 (実施状況)  |   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊婦シミュレーター体験 (夫)</li> <li>2 講義「家族みんなで取り組むお口の健康」</li> <li>3 講義「健やかな赤ちゃんを産むための食事」</li> <li>4 実習「赤ちゃんのおふろの入れ方」</li> </ol>  |   |
| 工夫点   |   |
| <p>民間の医療機関においても母親学級を実施していることから、定期的に医療機関に対して実</p>  |   |

施内容を照会するアンケート調査を実施し、行政サービスとしての対象者や内容を検討している。感染対策上、事業の中止や縮小せざるを得ない状況が続く中で、適切に情報発信を継続するために、2020年度末から、両親学級の動画配信を開始した。

#### 課 題

核家族化の進行とともに、「産後うつの増加」、「ワンオペ育児」、「産後クライシス」等、子育てをめぐる厳しい環境が問題視され、父母のメンタルヘルスが重要となっている。  
→2021年度から心理士によるメンタルヘルスの講話を開始  
「ママ、パパになるプロセスにおけるメンタルヘルス」

#### 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

受講者へのアンケート調査から、教室への参加理由として、「沐浴実習に興味がある」との返答が8割を超えており、「産後の生活をイメージしたい」、「妊婦シミュレーターに興味がある」との返答も4割程度あったことから、母体への理解や配慮、夫とその他の家族が沐浴等の手技を獲得し、育児に参加することを期待していることが伺えた。

参加者全員から、「参加して良かった」との声が聞かれており、「夫婦で参加したことで、互いに理解できて良かった」、「赤ちゃんが生まれてからの生活をイメージすることができた」等、夫婦で育児を具体的にイメージし、自信をつける機会になっていると考える。

### 3. 北海道苫小牧市

#### 地域の特徴

【面積】561.58 km<sup>2</sup>

【地勢】苫小牧市は道央地区の南部に位置し、北西側の樽前山を背に台地・丘陵・沖積低地からなる地形で太平洋に面しており、全般に温暖で、冬期の降雪も少なく、しのぎやすい気候となっています。本市の自然は、樽前山麓の広大な森林をはじめ、湖沼群や湿原、自然緑地などが広く分布しています。なかでもウトナイ湖は、全国屈指の渡り鳥の中継地として知られており、国際的にも重要な湿地として1991年12月にラムサール条約に登録されました。

最高気温29.9℃（29年月平均は11.8℃）、最低気温-15.8℃（29年月平均は3.7℃）、降水総量1、225.5mm  
降雪量166cm、※気象（平成29年版統計書より）

総人口世帯数：169、800人（令和3年6月末）、高齢化率：29.6%（令和3年6月末）

出生数：1,152人（令和2年）※年次、合計特殊出生率：1.51（平成20～平成24年度）

※苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略（令和2.3）より

#### 事業概況

事業開始：令和元年度

対象：生後4か月から1歳6か月以下の児とその父親

実施頻度：年2回（7月、1月）

募集人数（1回あたり）：24組

担当部署：健康子ども部健康支援課

担当者 職種：保健師人数3～4名（実施当日）



#### 取り組みの経過

平成28年度より、父親参加型事業として『パパカフェ』を委託事業として実施。

（年3回、保育士による父子での親子遊び、先輩パパの小話、パパ同士の交流）

・参加人数が少ないため、令和元年度より、直営で『おとうさんといっしょ！！』を実施。

(年2回、保健師の講話、保育士による親子遊びの紹介・手形アート作り)

2019年度 取り組み内容 (実施状況)

1. 実施会場及び参加人数(定員:1回目24組/2回目20組)

| 実施日   | 場 所       | 申込人数 | 参加人数 |
|-------|-----------|------|------|
| 7月7日  | 教育・福祉センター | 24   | 24   |
| 1月17日 | 教育・福祉センター | 20   | 17   |
|       | 合計        | 44   | 41   |

うち2回以上参加した方は1名。  
うち2回以上参加した方は3名。

2. 参加者の内訳(月齢 父の年代、出生順位)

(1)参加児の月齢

| 月 齢 | 人 数 | 月 齢  | 人 数 | 月 齢    | 人 数 |
|-----|-----|------|-----|--------|-----|
| 4か月 | 5   | 8か月  | 3   | 1歳~1歳半 | 13  |
| 5か月 | 1   | 9か月  | 2   |        |     |
| 6か月 | 7   | 10か月 | 6   |        |     |
| 7か月 | 3   | 11か月 | 1   |        |     |

(2)出生順位

| 出生順位 | 人 数 |
|------|-----|
| 第1子  | 39  |
| 第2子  | 2   |

(3)父の年代

| 父の年代 | 人 数 |
|------|-----|
| 20歳代 | 15  |
| 30歳代 | 23  |
| 40歳代 | 3   |

工夫点

- ・参加者を2グループ(乳児・幼児)に分け、それぞれの月齢に応じた講話・遊びを行っている。
- ・形に残るものとして、父と子の手形アートを作成している。

課 題

- ・コロナ禍のため、参加人数を制限している(母親の参加をお断りしている)
- ・父親へのピアサポート支援事業としての事業には該当しないため、今後、出産や子育てに悩む父親に対する支援を更に充実していく必要があると考える。

取り組みの評価(参加者からの評価を含む)

アンケート内容 (配付数41 回収数31 回収率75.6%)

1保育士あそび

|      |       |
|------|-------|
| 満足   | 96.8% |
| やや満足 | 0.0%  |
| やや不満 | 0.0%  |
| 不満   | 0.0%  |
| 未記入  | 3.2%  |

2読み聞かせ

|      |       |
|------|-------|
| 満足   | 90.3% |
| やや満足 | 6.5%  |
| やや不満 | 0.0%  |
| 不満   | 0.0%  |
| 未記入  | 3.2%  |

3保健師の話

|      |       |
|------|-------|
| 満足   | 90.3% |
| やや満足 | 6.5%  |
| やや不満 | 0.0%  |
| 不満   | 0.0%  |
| 未記入  | 3.2%  |

4手形アート

|      |       |
|------|-------|
| 満足   | 93.6% |
| やや満足 | 3.2%  |
| やや不満 | 0.0%  |
| 不満   | 0.0%  |
| 未記入  | 3.2%  |

5総合

|      |       |
|------|-------|
| 満足   | 96.8% |
| やや満足 | 0.0%  |
| やや不満 | 0.0%  |
| 不満   | 0.0%  |
| 未記入  | 3.2%  |

育児への関心の変化

| 【参加前】 |       | 【参加後】 |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 5(高い) | 32.2% | 5(高い) | 83.9% |
| 4     | 48.4% | 4     | 16.1% |
| 3     | 12.9% | 3     | 0.0%  |
| 2     | 6.5%  | 2     | 0.0%  |
| 1(低い) | 0.0%  | 1(低い) | 0.0%  |

変化の平均値: +0.71

子どもへの接し方の自信の変化

| 【参加前】 |       | 【参加後】 |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 5(高い) | 19.4% | 5(高い) | 54.8% |
| 4     | 41.9% | 4     | 35.5% |
| 3     | 25.8% | 3     | 9.7%  |
| 2     | 12.9% | 2     | 0.0%  |
| 1(低い) | 0.0%  | 1(低い) | 0.0%  |

変化の平均値: +0.57

アンケート内容からも参加者の満足度は高く、育児への関心や接し方の自信も参加前後でプラスに変化しており、参加者の目的・事業目的ともに達成できたのではないかと考える。今後も、参加者のニーズや理解・満足度を把握するため、アンケートを継続し、アンケートの内容を見ながら、内容の充実を検討する。

#### 4. 青森県平川市

|  |
|--|
| <p>地域の特徴</p> <p>【面積】 346.01 km<sup>2</sup></p> <p>【地勢】 津軽平野の一部で農業に適した肥沃な土壌の地質を持ち、水田地帯として利用される平坦地と、標高20～300メートルの丘陵地で水稲とりんごの複合経営地帯として活用されている台地、八甲田・十和田火山群の一部に属した山間地で、ほとんどが国有林となっています。</p> <p>平川市の気候は日本海型気候に属していますが、東に八甲田山、西に岩木山があり四方山々に囲まれていることから1年を通じ安定した温暖な気候で、しかも温暖差が少なく県内ではもっとも恵まれている地域となっています。</p> <p>緑が多く、人々が快適な生活を送れる自然環境を保っており、四季の移り変わりが美しく、また、自然災害も比較的少ないところでもあります。</p> <p>総人口世帯数：30,569人、12,177世帯（令和3年7月31日）</p> <p>高齢化率：31.41%（平成27年）</p> <p>出生数：166人（令和元年）</p> <p>合計特殊出生率：資料なし</p> |
| <p>事業概況</p> <p>事業開始：平成29年度</p> <p>対象：市内に居住する妊婦及びその家族（妊娠16週から36週頃まで）</p> <p>実施頻度：4か月に1回 ※令和2年度は2回実施</p> <p>募集人数（1回あたり）：10組程度</p> <p>担当部署：平川市子育て健康課 子育て世代包括支援係</p> <p>担当者 職種 人数：●主担 保健師1名<br/>●副担 助産師1名 専門員1名</p>  |
| <p>取り組みの経過</p> <p>令和元年度から事業開始前のアンケートを実施し、参加者の状況を把握してその内容を事業に反映する等の改善を行った一方、アンケート記載に時間を要するため、これを廃止して、妊婦体験や抱っこ体験を行う時間を増やすなど改善をしている（なお、現在は事前アンケートを実施している）。</p> <p>平成30年度までは1回あたり2人の助産師を講師としていたが、令和元年度より青森県助産師会に業務委託し、それまで以上に多くの助産師が本事業に関わり、専門的な助言や指導をより厚く受けることが可能な体制を整えている。</p> <p>当初、実際にお湯を張って沐浴体験を実施していたが、お湯を張らなくても模擬体験が容易であり、現在ではエアで実施している。</p>  |
| <p>2019年度 取り組み内容（実施状況）</p> <p>1、助産師の講話<br/>お産・妊娠の経過、歯の手入れ、ホルモンの変動と産後うつ、夫のサポートの必要性、リラクゼーションストレッチ、栄養バランスについて、喫煙について、夫にできること ほか</p> <p>2、体験コーナー<br/>人形を使った沐浴体験、育児体験、赤ちゃんの着替えやおむつ交換、妊婦体験 ほか</p> <p>3、夫婦でミーティング</p>   |
| <p>工夫点</p> <p>参加者の年齢や初産婦、経産婦等の諸条件をスタッフで情報共有し、参加者の状況に応じた事</p>   |



業内容となるように柔軟に対応している。座席は週数が近い人同士を隣接させる等の配慮をしている。講話だけでなく、体験活動を多く取り入れるようにしている。講話に産後うつを取り入れることで夫に重要性を認知させる機会を設けている。産まれてからの家事分担・育児分担を産まれる前に話し合いができるようにしている。

上の子が参加した場合には、上の子にも内容が理解しやすいように工夫して講話等している。広報や健康カレンダーなどへの掲載に加え、個別通知、中期以降のアセスメントの際に対象者に参加を呼び掛ける等、機会を見逃さずに対象者への周知に努めている。年3回いずれも夜間に実施することで夫婦・家族で参加しやすい状況を作っている。

#### 課題

医療機関で実施していた母親教室が新型コロナウイルスの影響で未実施となるなどし、参加者が増大した。これにより参加上限を超え、参加希望者すべてを参加させることができなかった（なお、参加できなかった者に対して個別に対応する体制をとっている）。内容を充実させている反面、参加者個別に対応する時間や意見交換の時間を十分に設けることができていない。

#### 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

夫を含む全参加者の評価は良好。

特に夫から家事育児分担の必要性を感じた等の意見が聞かれたことは評価できるものと感じられる。

事業のスローガンに資する内容で実施されているものと感じられる。

## 5. 群馬県富岡市

### 地域の特徴

【面積】 122.85 km<sup>2</sup>

【地勢】 本市は、群馬県の南西部に位置し、安中市、下仁田町、甘楽町と接しています。東京から約100kmの距離にあり、上信越自動車道及び関越自動車道によって東京と約1時間で結ばれ、高崎市及び前橋市からは、20～30kmの距離にあります。

東は関東平野に続く平坦地で、西には上毛三山の一つである標高1,104mの妙義山、南には標高1,370mの稲含山、北は小高い丘陵地帯であり、中央部を鐮川とその支流である高田川が流れ、その流域に平地が開け、市街地・集落地を形成している四季の変化に富んだ自然が豊かで、風光明媚な地域です。

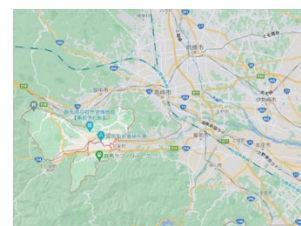
総人口世帯数：47,220人・20,361世帯（令和3年8月1日）

高齢化率：36.6%（令和3年8月1日）

出生数：218人（令和1年10月1日）

参考 207人（令和2年度単純集計）

合計特殊出生率：1.14（令和1年10月1日）



### 事業概況

事業開始：2000年

対象：初妊婦とその夫（パートナー）

実施頻度：年3回

募集人数（1回あたり）：原則制限なし

担当部署：健康推進課

|   |
|---|
| 担当者 職種：助産師 人数 1人（主担当）   |
| <p style="text-align: center;">取り組みの経過</p> <p>母親学級を開催している中で、沐浴実習時には夫婦での参加を促していたが、母親学級は、平日に実施していたため、「参加したいが夫は仕事が休めない」などの声があった。そのため、開催日を土曜日にし、また、父親として妊娠・出産・育児をイメージしやすいよう内容を工夫し実施することとした。</p>   |
| <p style="text-align: center;">2019年度 取り組み内容（実施状況）</p> <p>対象者 : 初妊婦とその夫（パートナー）など<br/> 実施回数等 : 年3回実施（申込制）・土曜の午前中（6/22・11/30・2/22）<br/> 実施会場 : 保健センター<br/> 実施内容 : 先輩パパの体験談・DVD「お父さんへ」・沐浴実習・妊娠シミュレーター（模擬体験交流会）<br/> スタッフ : 先輩パパ・助産師・保健師・看護師など<br/> 周知方法 : 母子健康手帳交付時に案内配付・広報・ホームページなど<br/> 受講人数 : 延29組（59人）</p>   |
| <p style="text-align: center;">工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩パパから妊娠、出産、子育ての状況を話していただく機会を設けている。そのことによって、参加者は妊娠、出産、子育てをより身近に感じられるように取り組んでいる。</li> <li>・産後鬱について、先輩パパに実体験を話してもらったり、資料にて周知を行っている。</li> <li>・夫婦での参加を基本としており、夫婦の絆づくりや、また、他の夫婦との交流もあるため、他の家族との関係性を築くきっかけづくりにしている</li> </ul>   |
| <p style="text-align: center;">課 題</p> <p>年々、核家族化が進み、夫婦での子育てが増加し、父親のサポートは重要になってきている。富岡市では、1回の教室に、父親としての意識、実践という内容になっている。1回の内容で、父親自身がサポートの重要性を感じ、積極的に行動してもらえるように促していくことが必要である。そのため、父親自身が理想の父親像を考え、どう取り組んでいくか、具体的に考えられるような事業内容にしていくことが課題と考える。</p>   |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <p>&lt;参加者からの声&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妻に促されて参加したが、教室に参加したことで、妊娠、出産、子育てをもっとサポートしようという意識が変わった。</li> <li>・妊娠中がこんなに大変だとは思わなかった。妻に何かを頼むのは大変と思った。</li> <li>・妻の精神面の変化を知り、サポートをしようと思った。</li> <li>・沐浴を実践したことで難しさを実感した。出産までに練習をしようと思った。</li> <li>・赤ちゃん人形の重たさを実感した。</li> <li>・出産前に勉強ができてよかった。</li> </ul> <p>参加者の声から、先輩パパから具体的な内容を聞いたうえで、DVDにてイメージを具体化していくこと、赤ちゃん人形の抱っこや妊婦シミュレーターでの妊娠の擬似体験、沐浴の実習を行うことで、父親としての意識の変化に繋がっている。</p> <p>教室に参加したことで、父親像を考えるよい機会になり、これから夫婦で子育てを行っていく</p> |

ことを考えるきっかけづくりになっていると考える。

## 6. 千葉県印西市

### 地域の特徴

【面積】 123.79 km<sup>2</sup>

【地勢】 南東部を印旛沼、北西部を手賀沼、北部を利根川に囲まれ、標高20から30m程度の下総台地といわれる平坦な台地と、沼及び河川周辺の低地により構成されています。

市の大部分を占める台地は周囲の沼や川につながる谷津といわれる谷に切り込まれ、北総地域に特徴的な景観を形成しています。

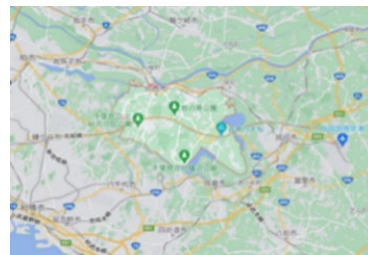
地質は、台地に関しては上部に関東ローム層が厚く蓄積し、低地部は河川によって運び込まれた土砂が堆積する肥満沃な土地が広がっています。

総人口世帯数：43,045世帯（令和3年7月末時点）

高齢化率：22.4%（令和元年9月末時点）

出生数：827人（令和2年1月1日時点）

合計特殊出生率：1.41（令和元年時点）



### 事業概況

事業開始：平成30年度

対象：5歳児とその父親（両親での参加も可能）

実施頻度：2回/年

募集人数（1回あたり）：15組

担当部署：健康子ども部健康増進課健康支援係

担当者：保健師1名、理学療法士1名、管理栄養士1名

運動指導：エアロビクスインストラクター1名

（外部講師）

### 取り組みの経過

当市の「第2次健康いんざい21～印西市健康増進・食育推進計画～改訂版」の基本目標の一つに「身体活動量の増加と運動習慣の確立」がある。その行動目標として、「日常生活のすき間時間の中で、気軽にできる運動を継続しよう」「ライフステージごとにしっかりと運動を習慣化しよう」「介護予防を意識して身体を動かそう」という目標がある。

成人の運動習慣がある人の割合は特に30歳代が2割未満と低い。また、20歳代の時と比べて運動習慣がかなり減少していることから、30歳代の男性を本事業のメインターゲットとした。30代、40代の男女それぞれ運動習慣がある人の割合も低いため、両親での参加も可とした。

### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

- ・父親（と母親）が運動を行っている間に、子どもは簡単なおやつ作り（フルーツ白玉）と、試食を行う。
- ・運動の内容はエアロビクスを60分、体力測定を15分行う。
- ・運動終了後に運動に関するミニ講話を10分行う。
- ・子どもの試食終了後に、父親（と母親）と一緒に親子で体を使った遊びを15分行う。

### 工夫点

- ・運動講座のみであると、参加者が集まりづらいため、子どもの「おやつ作り」を同時に開催し



た。

- ・市の広報紙、市内の保育園、幼稚園の対象クラスにちらしを配布した。



#### 課 題

- ・運動習慣の動機付けにはなったようであるが、継続的な運動習慣の定着には課題がある。課題を踏まえ、2年目は市内運動施設の紹介や、日常の親子遊びで体を使った遊びの紹介などを行った。
- ・新型コロナウイルス感染症が蔓延するなか、試食を伴う事業や人を集めて実施する事業ができず、本事業も中止のままである。

#### 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

令和元年 5月26日 実施人数12組

令和元年11月24日 実施人数12組

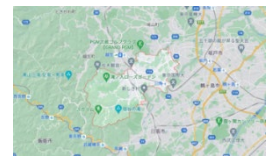
- ・当初、各日程で15組の申し込みだったが、当日キャンセル等で参加人数が12組となった。
- ・子どものおやつ作り、運動の内容、親子遊びなど全体的に好評であった。
- ・参加者からはまた参加したいとの声が多くあった。

## 7. 埼玉県毛呂山町

### 地域の特徴

【面積】 34.07 km<sup>2</sup>

【地勢】 山地と平野を有する多様な地形で、豊かな自然に恵まれています。西部に広がる山地は外秩父山地の東縁部にあたり、一部が県立黒山自然公園に指定されています。中央部から東部にかけての平地には住宅地と水田地帯が広がっています。都心まで50km、1時間圏内のため、宅地化が進んでいます。



総人口世帯数：33,100人（令和3年7月1日）

高齢化率：34.8%（令和3年7月1日）

出生数：110人（平成31年1月~令和1年12月）

合計特殊出生率：0.73（平成31年1月~令和1年12月）

### 事業概況

事業開始：平成28年度

対象：概ね就学前

実施頻度：不定期

募集人数（1回あたり）：10組程度申込順（現在は5組）

担当部署：子ども課

担当者 職種 人数：2名【うち1名正規職員（子育て支援員）、1名は子ども課職員又は任用職員】

### 取り組みの経過

平成28年度、埼玉県の研修がきっかけとなり父親向けの事業を開始。土日休みの父親が多いと思い、土日を対象に事業を検討。消防署見学、講師を招いた体を使った遊び、子育て支援セ

ンターでの遊び等を実施した。当初、父親が参加し母親にはリフレッシュの時間となるのではと考えていたが、ご家族での参加が多く、夫婦で子どもとの時間を共有できる場、祖父母も含めた家族で楽しめる場となっている様子。

#### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

- ・6月15日（土）：消防署見学【子18名、大人18名（うち父8名）※12組】
  - ・7月14日（日）：ワンダーハウスで遊ぼう【子12名、大人17名（うち父9名）※9組】
  - ・9月28日（土）：子育て支援センターで遊ぼう【子8名、大人10名（うち父5名）※7組】
  - ・11月30日（土）：高速道路の作業員見学【子17名、大人18名（うち父7名）※9組】
  - ・2月16日（日）：ワンダーハウスで遊ぼう【子13名、大人17名（うち父8名）※9組】
- \*令和元年度事業参加父親数計：37名

#### 工夫点

- ・土日に実施
- ・事前周知（平成P等）
- ・父が興味ありそうなイベント内容
- ・参加者にささやかなプレゼント
- ・実施後、その様子を平成P掲載（参加者増）

#### 課題

- ・参加については、こちらから声をかけたり、電話でお誘いしているのが現状。
- ・事業の中で父親同士の交流にもつながればよいが、そこまでは至っていない印象。
- ・事業により父と子どもとの時間や家族で楽しめる時間が増えるきっかけになっているとよいがその後の調査はしておらず、各家庭の子育て環境にプラスの影響を与えられているかは不明。

#### 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

- ・アンケートで「とてもよかった」「よかった」等の声を多くいただいているため、実施してよかったと思っている。
- ・アンケート内容を今後反映し、利用者が参加しやすい内容になるよう努めている。
- ・地域の交流にもつながり、よい事業だと感じる。
- ・現在コロナのため実施縮小となり、残念に思う。

## 8. 新潟県新発田市

### 地域の特徴

【面積】 533.10 km<sup>2</sup>

【地勢】 新潟県の北部に位置する中核都市

古くからの城下町として県北の行政・産業・経済・教育・文化の中心的都市として発展する一方、海あり山ありの自然豊かな土地。良質で豊富な水源を持ち、稲作や日本酒造りが盛んな地域 新潟市のベットタウンとして居住する人も多いが、郊外にショッピングセンターが出店し、新興住宅街が造成されている。そのため、ドーナツ化現象が進み、中心商店街の衰退は加速している。

人口減少対策の効果により人口減少は緩やかであるが、高齢化率は30%を超え、徐々に上昇している。

総人口：96,374人

世帯数：36,987世帯

高齢化率：32.0%

出生数：593人

合計特殊出生率：1.37

※出生数・合計特殊出生率は令和元年の値、その他は、令和2年9月30日現在の値



### 事業概況

「父親の父性の醸成、積極的な育児参加への意識の高揚」を目的として、2018年2月からファザーリング・ジャパン新潟と新発田市健康推進課で「新発田市版父子手帳」の作成・配付に取り組んだ。

・父子手帳作成打ち合わせ会議（2018年）メンバー：ファザーリング・ジャパン新潟（以下、FJN）及び新発田市

12月1日 第1回会議

・作成のコンセプトを共有し、互いの意見を反映しながら協働で作成することを確認

24月26日 第2回

・FJNから作成方針の提案と意見交換

35月14日 第3回

・FJNから作成方針の説明

・父子手帳交付式典（2018年8月8日・パパの日）

1記念講演

講師：大阪教育大学 准教授 小崎恭弘 氏

演題：「育児を楽しむパパになる」

※その他、男性の働き方やワークライフバランスに関する意識などを把握するために、市民や母親サークルからも意見をもらった

### 取り組みの経過

<子どもと共に成長できるパパ>父親と子どもの成長記録として、父親が自分のものとして活用できるように、写真を貼ったりその時々父親の気持ちを書き込めるものにする

<育児に積極的に参加できるパパ>父親視線を大切にし、父親が育児や家事を主体的に取り組めるような内容にする

<家族と一緒に子育てを作りあげるパパ>母子手帳と「対」の物と考え、父親と母親が2冊の手帳を

| 共有して、妊娠初期から夫婦で育児を一緒に考えられるようにする<br><育児を楽しむパパ>父親サークルの紹介や先輩パパからのアドバイス等を掲載し、父親も仲間づくりをしながら楽しく育児ができるようにする  |  |      |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
|--|--|------|---|---|----------|----|----|-------|-----|-----|------|----|----|-----|----|----|
| 2019年度 取り組み内容（実施状況）<br>※2020年2月に関係者会議を開催し、現状について、FJNと市で共有した  |  |      |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 工夫点  |  |      |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●父子手帳を意識してもらおう機会を増やす <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親から父親に活用の声かけをしてもらう</li> <li>・マタニティ教室や乳幼児健診で父親に直接声かけをする</li> <li>・母子手帳と一体的に保管してもらい目に触れる機会を増やす（母子手帳カバーの工夫）</li> </ul> </li> <li>●父子手帳の価値を高める <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲載内容の充実を図る（遊び場や子どもと一緒に活用できる場所の紹介など）</li> <li>・胎児エコーの写真や新聞の「うぶ声欄」などを貼るページを設ける</li> </ul> </li> <li>●活用の機会を設ける <ul style="list-style-type: none"> <li>・マタニティ教室参加時に写真を撮って記念に手帳に貼れるようにする</li> <li>・父親への保健指導の際、父子手帳を活用する</li> </ul> </li> </ul> |  |      |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 課題   |  |      |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 新型コロナウイルス感染拡大による事業縮小の中<br>コロナ禍の中でもできる取組を継続し、次期改定に向け準備中   |  |      |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）   |  |      |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子手帳交付に夫婦で来所した場合は、父親にも父子手帳の使い方を説明し、父親からは「父親になる実感が沸いた」「母と協力して育児していきます」等の声が聞かれた。</li> <li>・一方、令和元年7月～12月に乳児健診来場者に実施したアンケート（対象者319人・回答者256人）では、父親の父子手帳の活用状況について「交付時のみ目を通した 55%」「全く読んでいない 30%」「定期的に活用 5%」「未記入10%」という結果だった。</li> </ul>  | <p>父子手帳利用状況（人）</p> <table border="1"> <caption>父子手帳利用状況（人）</caption> <thead> <tr> <th>活用状況</th> <th>父</th> <th>母</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全く読んでいない</td> <td>76</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>交付時のみ</td> <td>140</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>定期的に</td> <td>14</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>未記入</td> <td>26</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> | 活用状況 | 父 | 母 | 全く読んでいない | 76 | 33 | 交付時のみ | 140 | 180 | 定期的に | 14 | 11 | 未記入 | 26 | 32 |
| 活用状況   | 父  | 母    |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 全く読んでいない   | 76   | 33   |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 交付時のみ  | 140  | 180  |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 定期的に   | 14   | 11   |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |
| 未記入  | 26   | 32   |   |   |          |    |    |       |     |     |      |    |    |     |    |    |

## 9. 長野県小諸市

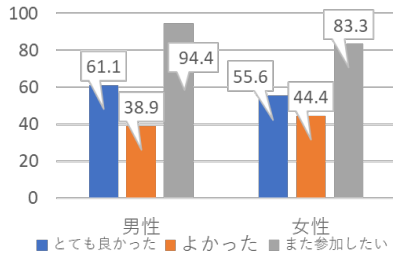
|   |  |
|---|--|
| 地域の特徴   |  |
| <p>【面積】 98.55km<sup>2</sup></p> <p>【地勢】 東西12.8 k m 南北15.4 k m</p> <p>総人口世帯数：19,009世帯（令和3年8月1日現在）</p> <p>高齢化率：32.20%（令和2年4月1日現在）</p> <p>出生数：268（令和2年度）</p> <p>合計特殊出生率：1.6（令和2年度）</p> |  |
| 事業概況  |  |

|   |         |         |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
|---|---------|---------|---------|--------|----|-------|-------|----|-----|-------|----|-----|
| <p>事業開始：平成29年12月～</p> <p>対象：妊娠中の夫婦</p> <p>実施頻度：年3回</p> <p>募集人数：20組/回（ただし令和2、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、縮小し12組/回で実施。）</p> <p>担当部署：健康づくり課 保健予防係</p> <p>担当者（職種・人数）：助産師3名、保健師2名</p>   |         |         |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| <p style="text-align: center;">取り組みの経過</p> <table border="0"> <tr> <td>平成29年度</td> <td>開催回数：1回</td> <td>参加者：34名</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>3回</td> <td>計：91名</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3回</td> <td>96名</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>3回</td> <td>62名</td> </tr> </table>   | 平成29年度  | 開催回数：1回 | 参加者：34名 | 平成30年度 | 3回 | 計：91名 | 令和元年度 | 3回 | 96名 | 令和2年度 | 3回 | 62名 |
| 平成29年度  | 開催回数：1回 | 参加者：34名 |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| 平成30年度  | 3回      | 計：91名   |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| 令和元年度   | 3回      | 96名     |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| 令和2年度   | 3回      | 62名     |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| <p style="text-align: center;">2019年度 取り組み内容（実施状況）</p> <p>令和1年度7月、12月、2月開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義（助産師）：産後のママの体と心の変化、男女の脳の違いについて</li> <li>・抱っこ体験、胎児への声掛けと触り方、妊婦体操、妊婦ジャケットの着用体験等</li> <li>・グループワーク：パパグループとママグループに分かれて意見交換。</li> </ul> <p>ママグループ 妊娠中の楽しみ、今大変なこと、妊娠中・産後パパにしてほしいと思っていることなど。</p> <p>パパグループ 妊娠・出産で楽しみにしていること、ママや赤ちゃんにしてあげたいこと、妊娠・出産について助産師さんに聞いてみたいこと、知りたいことなど。</p> <p>最後に各グループで出した意見を発表し、全体で共有。</p> |         |         |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| <p style="text-align: center;">工夫点</p> <p>&lt;パパの妊婦体験&gt;</p> <p>妊婦ジャケットを着用し、妊娠期のお腹の重さや生活動作を体験することで、妊娠中の大変さを共感してもらう。</p> <p>&lt;抱っこ体験&gt;</p> <p>ベビー人形を用いて抱っこの仕方やおむつ交換の体験してもらい、育児手技の獲得だけでなく、夫婦で子育てに関する共通の話題を作れるようにする。</p> <p>&lt;グループワーク&gt;</p> <p>パパグループ、ママグループに分かれた意見交換と、最後に全体での共有を行い、パパ・ママの思いの違いについて知ることや夫婦で話をする大切さについて知ってもらう。</p>  |         |         |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| <p style="text-align: center;">課 題</p> <p>コロナウイルス感染症の影響もあり、産科での教室開催も少なくなり、市の教室参加の需要が高まっている。</p> <p>しかし、市でも人数制限をせざるを得ない現状であり希望者の全ての方の参加が難しい。</p>   |         |         |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <p>&lt;男性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抱っこ体験が出来て良かった。</li> <li>・他のパパの思いが聞けたので自分としても楽しみが増えた。</li> <li>・ママのサポートをしたいと思った。</li> </ul>  |         |         |         |        |    |       |       |    |     |       |    |     |

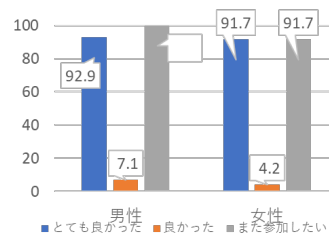
- ・出産のサポートの仕方や赤ちゃん和妈妈への接し方を知れて良かった。

<女性>

- ・パパの意見が知れて良かった。
- ・旦那さんと一緒に赤ちゃんのことを学べたので良かった。
- ・パパが抱っこの練習が出来て良かった。
- ・他の妊婦さんとお話する機会があって良かった。



平成31年度11月 アンケート



2月アンケート

## 10. 福井県坂井市

### 地域の特徴

【面積】 209.67km<sup>2</sup>

総人口世帯数：32,518世帯（令和3年8月）

高齢化率：28.8%（令和3年8月）

出生数：570（令和2年1月～12月）

合計特殊出生率：1.67（平成30年）



### 事業概況

対象：市内の妊婦とその家族

実施頻度：2コース制。A+B＝計6回

募集人数（1回あたり）：10組

担当部署：健康福祉部 健康増進課

担当者：保健師・管理栄養士等

### 取り組みの経過

Aコース（母親向け講座）...年3回

助産師・管理栄養士の講座

Bコース（父親向け講座）...年3回

NPO法人 おっとふあーざー代表 舘 直宏氏の講演「パパとママからのプレゼント」

沐浴体験・ミルク作成体験

### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

Aコース2回、Bコース2回実施

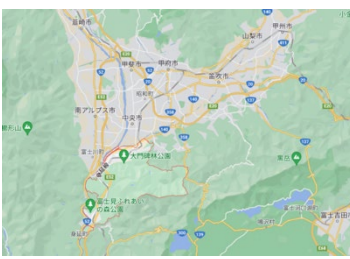
・内容は上記参照。

・坂井市ホームページにて、講演の様子を動画で掲載。

### 工夫点

|  |
|--|
| <p><b>Bコース（父親向け講座）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親も参加できるよう、日曜日の午前中に開催している。</li> <li>・男性の講師を招き、父親目線での講演を実施し、興味関心をひきやすくする。</li> <li>・沐浴やミルク作成の体験を取り入れ、より育児をイメージしやすくしている。</li> </ul>   |
| <p style="text-align: center;"><b>課 題</b></p> <p>定員に達してしまい、講座を受けられない場合がある。</p>   |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <p><b>【父親参加者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親の活躍が重要になるというのが印象に残った。</li> <li>・産前産後の生活についてイメージができた。</li> <li>・自分が思っている以上に準備することがあり、参考になった。</li> <li>・沐浴やミルク作成など、赤ちゃんが生まれてからすぐに必要になるスキルを実践で学ぶことができ、参考になった。</li> </ul> <p><b>【母親参加者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夫と参加でき、出産までに話し合う内容などを教えてもらえてよかった。</li> <li>・パパのための話が聞けてとてもよかった。2人で子育てを楽しみたい。</li> <li>・沐浴やミルク作成を、はじめて夫ができたことがよかった。</li> </ul> <p><b>【担当者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親向けの講座は、毎度定員に達しており人気講座となっている。父親の参加率は8割程度である。アンケートから、講座は、父親の自覚や、家事・育児参加を促すきっかけになっていると感じる。今後も父親向けの講座を継続し、積極的に家事育児に参加できるよう支援していきたい。</li> </ul> |

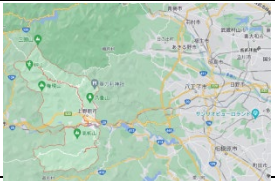
## 11. 山梨県市川三郷町

|   |   |
|---|---|
| <p style="text-align: center;"><b>地域の特徴</b></p> <p><b>【面積】</b> 75,18平方 km<sup>2</sup></p> <p><b>【地勢】</b> 山梨県の1,7%を占める。曾根丘陵性山地、富士川に囲まれた平坦地と山間地が広がる</p> <p>総人口世帯数：15,297（世帯数：6,670）</p> <p>高齢化率：37.6%</p> <p>出生数：87（令和2年度）</p> <p>合計特殊出生率：1.50（平成31年）</p> |  |
| <p style="text-align: center;"><b>事業概況</b></p> <p>事業開始：平成17年</p> <p>対象：妊娠5か月以降の妊婦とその夫、パートナー</p> <p>実施頻度：年3回</p> <p>募集人数（1回あたり）：制限は特に設けていない</p>  |   |



|  |
|--|
| <p>担当部署：いきいき健康課<br/>         担当者 職種 人数：保健師、助産師各1名</p>  |
| <p style="text-align: center;">取り組みの経過</p> <p>核家族化が進み、夫婦で子育てをする世帯が多くなっている。地域の関係性も希薄になり、身近に相談者も少なく、唯一の協力者の夫からの協力が得られないことも多い。妊娠中より夫婦でお腹の中にいる子どもの命を大切に思いながら、お互い支えあい、夫婦で協力して育児ができる支援としての教室を実施した。</p>   |
| <p style="text-align: center;">2019年度 取り組み内容（実施状況）</p> <p>年2回の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVD鑑賞（妊娠の仕組み、胎児の成長、生命の誕生について/沐浴・スキンケア方法について）</li> <li>・妊婦疑似体験（夫に妊婦ジャケットを着用していただく）</li> <li>・育児手技の練習（抱っこ、オムツ替え、着替え等）</li> <li>・フリートーク（パパ、ママに分かれて）</li> <li>・おやつを試食（鉄分、カルシウム豊富な手作りデザート）とメニュー紹介</li> </ul>   |
| <p style="text-align: center;">工夫点</p> <p>フリートークなどでざっくばらんに話ができることで（雰囲気作り）、交流が持ちやすく、思いの共有ができ、育児への不安軽減につながられるように工夫した。<br/>         育児経験のある参加者の方から、お話しをしてもらうことで、より身近に感じられ、育児へのイメージにつながるよう工夫した。</p>  |
| <p style="text-align: center;">課 題</p> <p>記載なし</p>   |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児の成長や生命の誕生について、妊娠の奇跡や、目まぐるしい胎児の成長について知ることができ、改めて尊い命であることを再確認できた。</li> <li>・妊婦疑似体験では、妊婦の大変さ（行動制限や腰痛などマイナートラブル）を知ることができ、母を労わる様子もあり、育児への参加、協力に対して意識も高まっていた。</li> <li>・育児手技練習では、新生児の特徴を踏まえながら、抱っこやオムツ、着替えなど行い、具体的な育児へのイメージにつながっていた。</li> <li>・父、母で分かれてのフリートークでは、それぞれ交流もでき、貴重な場となっていた。仕事をしながら、どのように母をサポートしていったら良いのか、母も育児と家事の両立など、様々な不安もある中で、思いの共有や育児経験のある母や父からのアドバイスもあり、不安の軽減や励ましにもつながっていた。</li> <li>・助産師からの産後メンタルヘルスについて、家族サポートの大切さについての話があり、役割分担など妊娠期から話す機会をもつことで、より具体的にサポートへのイメージにつながっていた。</li> </ul> |

## 12. 山梨県上野原市

|   |   |
|---|---|
| <p>地域の特徴</p> <p>【面積】 170.57 km<sup>2</sup>（県土の3.8%）<br/>         【地勢】 当市は山梨県の最東部で南北21.6 k m、東西15.3 k m。<br/>         首都圏から約60～70 k m圏に位置し、東は神奈川県相模原市、南は</p> |  |
|---|---|



山梨県道志村、西は山梨県大月市と都留市、北は山梨県小菅村と東京都西多摩郡と隣接している。首都東京を中心とする関東圏から山梨県への東玄関口として重要な交流拠点となっている。山岳・段丘・河川が作り出す自然環境は、日照時間が長いなど様々な自然の特性に恵まれている。桂川や秋山川はともに相模原水系であり、神奈川県にける主要な水道供給源となっている。総人口世帯数：22,518人 10,055世帯  
 高齢化率：37.1%  
 出生数：76人  
 合計特殊出生率：1.16（2013～2017年平均）

#### 事業概況

##### 事業開始

対象：妊娠5か月～8か月の妊婦とその夫  
 実施頻度：年4回（1コース4回 3回目午前に実施）  
 募集人数（1回あたり）：特に設けていない  
 担当部署：福祉保健部子育て保健課  
 担当者 職種（スタッフ）：土曜開催は保健師2人

#### 取り組みの経過

以前に父親が参加する機会を設けたが、参加が少なく取りやめた経過がある。2018年度参加した

妊婦から要望あったため内容を見直し、父親が参加しやすいように土曜日開催として取り入れ、2019年度父親が出席できる講を再開する。内容は入浴やおむつ交換、調乳といった育児参加だけでなく、妊娠中出産後の妊婦の心や体の変化についての理解、妊娠中・出産後の家族の関係から夫婦間の話し合いの必要性などを取り入れる。

#### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

1コース4回、年間4コースで引き続き実施。仲間づくりを意識した内容にし、毎回参加者同士が話をする時間を意図的に取り入れ、また父親が参加できるよう1コースの3回目を土曜日午前開催する

- ・土曜の午前に父が参加しやすいように設定。内容として1妊婦さんの体や心の変化（講義）2育児参加の必要性
  - ・方法（講義）3沐浴、おむつ交換の方法などについて（シミュレーション）4赤ちゃんの泣きについて（ビデオ）などを取り入れ、妊娠・出産・育児について理解してもらう機会を意図的に作った。
- 年度途中から1、2を聞いて夫婦間での話し合いや他の夫婦とのグループワーク、グループワークの共有の時間も取り入れた。

#### 工夫点

- ・父親の参加する講は、理解し実践しやすいよう講義と実践・ビデオ鑑賞を取り入れる。また、出産により家族状況が変化してくるので夫婦間の話し合いに加え、グループダイナミクスを取り入れた。

#### 課題

- ・講義では父親の反応がわかりにくいグループワークを取り入れたたり、アンケートの記入により、父親の考えていること、思っていることがわかったので他の夫婦の状況を知る機会に

もなり、参加者同士が話せる機会を継続する。

- ・伝えたい内容が盛りだくさんで予定時間を過ぎてしまう。内容を厳選する必要あり。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

- ・参加率 指標 初産婦50%以上→ 57.9%（前年度より+0.3%）  
経産婦35%以上→ 35.6%（前年度より+7.6%）
- ・満足度（母親） 4回目の参加者が実施回数や内容良かったと回答（93.3%）
- ・母の参加者38人（初産婦22人 経産婦16人）参加率45.2%  
父の参加者13人 参加率19.0% 延べ父母参加者99人
- ・参加した父のアンケート内容から参加してよかったと好印象の意見が多かった。また、グループワークや沐浴の実践など印象に残っている回答が多い。→土曜午前開催は同様に行う。内容は妊婦さんの体や心の変化、父親の育児参加の必要性、家族で話すことの必要性。沐浴・更衣など育児方法、赤ちゃんの泣きのビデオ鑑賞により理解を勧める。
- ・母親同士の交流にお菓子作りもよかったという声もありコミュニケーションの場にもなっているため次年度も継続。

### 13. 神奈川県大和市

#### 地域の特徴

【面積】 27.09 km<sup>2</sup>

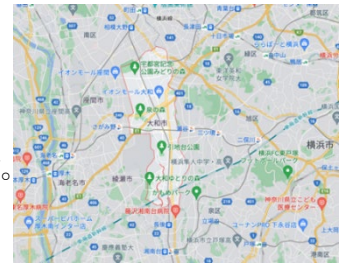
【地勢】 神奈川県のほぼ中央に位置し7つの自治体と接しています。丘陵起伏がほとんどありません。都心から40km圏内3つの鉄道が東西南北に走り、東京へ1時間弱、横浜へ20分で行くことが可能です。市内には8つの駅があり、市域のほとんどが駅まで徒歩15分圏内にあります。

総人口世帯数：112,156世帯(令和3年8月1日現在)

高齢化率：23.91%(令和3年8月1日現在)

出生数：1,899人(平成30年)

合計特殊出生率：1.37(平成30年)



#### 事業概況

事業開始：平成27年

対象：初産婦とその夫。乳児を育てる夫婦。

実施頻度：年3回

募集人数（1回あたり）：15組

担当部署：大和市子ども部すくすく子育て課母子保健係

担当者 職種 人数：保健師 3名、外部講師 1名

#### 取り組みの経過

妊娠をきっかけに夫婦、家族のつながりを見直す機会を築いていきたいという思いから講座を立ち上げました。妊娠中または育児をしている夫婦を対象に、育児についての知識の向上とともに、父親が育児を楽しみながら地域とのつながりや活性化を図ることを目的とし、イクメン講座を実施しています。

### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

ワークショップ型両親学級です。外部講師を依頼して実施しています。  
内容は、講話「サンクスカップルになろう」、グループワーク(相手にサポートしたい・してほしいこと等)、産後育児にまつわるクイズ(愛着形成について、産後うつ、揺さぶられ症候群について)、妊婦・育児体験です。  
講座は、全て土日の午前中開催としており、働く妊婦・産婦、夫も参加しやすいような日程をとっております。令和元年7月7日は妊婦・産婦16名、夫16名、乳児1名の参加、令和元年11月17日は妊婦・産婦17名、夫18名、乳児4名の参加で、ご夫婦での参加がほとんどでした。新型コロナウイルス感染症の影響で1回中止となっています。乳児の参加が多い際には、室内に授乳コーナーを設けるなど工夫をしました。

### 工夫点

- ・コロナ下で、同じ境遇の方と話す機会もないことから、感染症対策を徹底したうえで、グループワークを取り入れています。
- ・グループワークでは、最寄り駅ごとに分かれていただき、住まいの近い方での交流を持つことができるようにしています。
- ・育児体験ができるよう、妊婦体験物品や、赤ちゃん人形を用意しています。休憩時間や集合時間より早く来所された方、ご希望のある方が体験をされています。

### 課題

- ・イクメン講座が母親学級の内容（沐浴などの実習、妊娠・出産・育児に関する専門職からの講義等）を学ぶ講座と思っていた方がいました。予約時に内容を正しく伝えていく必要があります。妊婦・夫のニーズに合わせて、母親学級の参加も促していきます。

### 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

- ・グループワークを通して、同じ境遇の方と話ができてよかった、情報交換ができた、という声が多く聞かれました。
- ・夫婦で産後のことについて話す機会をきちんととれていなかったため、改めて「自分は何ができるのか」「相手は何をしてほしいと考えているのか」を考えることができたという声が多く聞かれました。アフターバースプランを考えるきっかけになったのではと考えます。
- ・受講終了時のアンケートの意見を次の講座に活かすように取り組んでいます。

## 14. 愛知県北名古屋市

### 地域の特徴

【面積】 18.37 km<sup>2</sup>

【地勢】 愛知県の北西部に位置する。平成18年3月20日に師勝町と西春町の合併により誕生。東に豊山町、西に清須市、南に名古屋市、北に小牧市、岩倉市及び一宮市に接している。東西約6km、南北約4km。ほぼ全域が名古屋市の都市部から10kmに位置している。

総人口世帯数：86,197人（37,417世帯）（令和2年3月1日）

高齢化率：24.0%（令和2年3月1日）

出生数：779人（令和元年度）


合計特殊出生率：1.53%（令和元年10月1日）



### 事業概況

|   |
|---|
| <p>事業開始：平成15年から（平成12年より母親教室として実施。<br/>       パパママ教室の名称では平成15年からとなる。）</p> <p>対象：妊婦とその夫</p> <p>実施頻度：平成25年より年8回の開催</p> <p>募集人数（1回あたり）：応募人数による</p> <p>担当部署：妊娠編→健康課、育児編→健康課、児童課</p> <p>担当者 職種 人数：</p> <p>妊娠編：保健師3人、臨床心理士または元学校教師1人、<br/>       保育士1人、助産師1人、管理栄養士1人</p> <p>育児編：保健師2人、支援センター職員（保育士）3人</p>  |
| <p style="text-align: center;">取り組みの経過</p> <p>平成12年度から育児経験のない妊婦に交流会を通し、育児と子どもへの理解がされるよう育児経験者の母親とその子ども（おおむね6か月児）とともに参加協力を得る。</p> <p>平成14年度からは臨床心理士を講師に“親子の関係”という内容を加える。</p> <p>平成15年度からは、パパにも参加してもらえるよう「パパママ教室」に名称変更。そして、土曜日開催に。</p> <p>平成16年度からは平日と日曜日に開催し、パパの参加を図ると同時に経産婦の方も参加しやすいように託児も開始。</p> <p>平成19年度より、パパの育児参加も得られるように妊婦の疑似体験や沐浴実習の経験、父親の立場の経験談を取り入れ実施。</p> |
| <p style="text-align: center;">2019年度 取り組み内容（実施状況）</p> <p>2日間に分けて実施。</p> <p>日曜日に、父親の役割についての講話とパパによる妊婦体験と沐浴実習等、交流会</p> <p>月曜日に、助産師による分娩経過と呼吸法、おっぱいの準備について<br/>       管理栄養士から妊娠中の栄養について講話を行う</p> <p>人数については、日曜日開催は初産婦123人、経産婦6人、父親128人<br/>       月曜日開催は初産婦74人、経産婦2人、父親7人</p>   |
| <p style="text-align: center;">工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々、参加者が増加しているため、年8回に回数を増やし、定員枠の廃止を行った。</li> <li>・平成26年度から日曜日・月曜日開催に。</li> <li>・男性講師に講義をお願いしている。</li> </ul>   |
| <p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での開催において、参加者のニーズに十分に答える事ができていない可能性がある。</li> </ul>   |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児経験のある講師から、父親の役割についての講話をいただいた。これから父親になるに向けて経験談を聞く事で、見通しが持てるように、また出産前後の母の変化についての話を交えて頂き夫婦関係についても考えるきっかけとなったのではと考えられる。</li> <li>・参加者のアンケート結果からは講義や沐浴体験等の満足度は、満足・おおむね満足と答えられる方が多数を占め、令和2年度のアンケート結果では妊婦に誘われ参加した父が約6割を占めていた。</li> </ul>                               |

15. 愛知県名古屋市

|  |  |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">地域の特徴</p> <p>【面積】 326.50km<sup>2</sup><br/>         【地勢】<br/>         ・ 東経<br/>         136度47分30秒から137度3分39秒<br/>         ・ 北緯<br/>         35度2分2秒から35度15分37秒<br/>         ・ 東西 24.52km<br/>         ・ 南北 25.13km</p> <p>総人口世帯数：1,125,357世帯（令和3年8月1日）<br/>         高齢化率：25.1%（令和2年10月1日）<br/>         出生数：17,740人（令和元年度）<br/>         合計特殊出生率：1.34（令和元年度）</p> |  |
| <p style="text-align: center;">事業概況</p> <p>事業開始：平成20年度<br/>         対象：おおむね妊娠6か月～7か月頃の妊婦と、<br/>         そのパートナー（共働きである事が条件）<br/>         実施頻度：月2～3日（延べ4～6回）<br/>         募集人数（1回あたり）：定員20組<br/>         担当部署：名古屋市子ども青少年局子育て支援部子育て支援課<br/>         担当者：愛知県助産師会へ委託</p>   |  |
| <p style="text-align: center;">取り組みの経過</p> <p>令和2年度は全52回実施。令和3年度は72回実施予定</p>   |  |
| <p style="text-align: center;">2019年度 取り組み内容（実施状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子手帳発行時に共働きでの子育てを考えているか確認し、共働きカップルのために情報を集約した冊子を配布している。教室参加は別途申込制をとっており、教室で配布した冊子を使用している。</li> <li>・ 共働きの育児ポイント（本市の利用できる制度、保育園への就園、家事分担など）を情報提供や助産師による赤ちゃんのお世話についての講話を実施。参加者を数名に分けて情報交換を実施している。</li> </ul>   |  |
| <p style="text-align: center;">工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家事分担表を使用し、子育て後の夫婦内での家事分担を可視化する。</li> <li>・ 自宅にあるぬいぐるみやまくらなどを赤ちゃんに見立て、抱っこや沐浴の練習を教室内で実施している。</li> </ul>  |  |
| <p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 父親のうつ防止、父親の孤立に対する支援を教室内で実施するにあたり夫婦それぞれにバランスよく伝えることが課題。</li> <li>・ 今年度オンラインで開催している教室を感染症の状況を見ながら次年度以降どのように実施していくか。</li> </ul>  |  |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p>  |  |

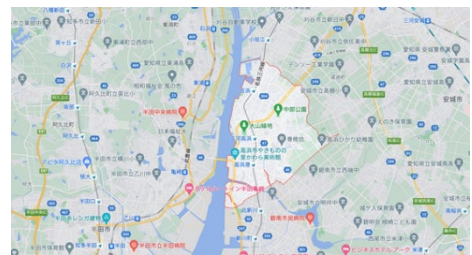
- ・令和2年7月より新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実会場での対面式教室を休止しZOOMを使用したオンライン教室で対応している。令和2年度は計52回教室を開催し、1353名（夫672人、妊婦681人）が参加した。抽選倍率は0.82倍。
- ・参加者からの評価  
令和3年4月～6月参加者アンケートより94.5%のカップルより他の共働きカップルにも参加を進めたい、との回答を得た。

## 16. 愛知県高浜市

### 地域の特徴

【面積】 13.11平方 km<sup>2</sup>

【地勢】 日本のほぼ中央にある愛知県三河平野の南西部に位置。中部地方の中心都市である名古屋市から南東へ25キロメートルのところにあつて、東は安城市、西は衣浦港をへだてて半田市、南は碧南市、北は刈谷市に接している。東西4.2km南北5.5km面積は13.11平方kmで、地質については、洪積地と沖積地に分けられるが、大部分は洪積地からなつており、比較的新しい第4紀層新世代の発展したもので、標高5mの洪積台地と河川流域及び海岸一帯の沖積層の標高2mの低地よりなつており、海岸線は延長5.4kmにおよび衣浦大橋によって知多半島と結ばれている。



### 事業概況

事業開始：平成27年度開始（コロナ感染症拡大により、R2年3月まで実施）  
 対象：4ヵ月健診参加の父親と児  
 実施頻度：月1回  
 募集人数（1回あたり）：特になし  
 担当部署：高浜市福祉部健康推進グループ  
 担当者 職種 人数：産師（1人）、子育て支援センター（1人）

### 取り組みの経過

平成27年度から実施。  
 令和2年度から新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。

### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

事業目的：4ヵ月児健診に来所した父親を対象に、父親が子どもの成長発達などを知る機会となり、ふれあい遊びなどを通して父親も育児を楽しむことができるようなきっかけとなる。  
 対象者：4ヵ月児健診に来所された父とその児（2～27組／回）  
 内容：20分程度。成長発達、乳幼児揺さぶられ症候群などの講話。親子遊び（ふれあい遊び、ベビーリフレクソロジー）を通して、子への関わり方を父に伝えていく。


### 工夫点

- ・子育て支援センターの職員と助産師で実施。妊娠期から出産、産後と乳児に専門的な関わりができる助産師で実施した。また、より地域の親子に近い存在である子育て支援センタ





|  |
|--|
| <p>一の職員で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経産の父親から初産の父親に話ができるようにし、父親同士の情報交換をできるようにした。</li> <li>・参加者の父親から土日の開催希望があり、子育て支援センターで同様な教室を開催した。</li> </ul>   |
| <p style="text-align: center;">課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の方が多いため、日本語が分からない方への対応。</li> <li>・健診に来所される父は育児への積極性が伺える。一方で育児参加に積極的ではない父へは、保健センターから直接働きかける機会が少ない。</li> <li>・平日に実施しており、働いてる方の参加が難しい。</li> <li>・感染対策を講じながらの実施。</li> </ul>  |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <p>2019年度 参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子（84.5%）、第2子（12.1%）、第3子以降（3.4%）</li> <li>・4か月児健診への参加理由①<br/>仕事は休み（27.6%）、休みを取得した（63.8%）、夜勤入り又は明け（8.6%）</li> <li>・4か月児健診への参加理由②<br/>休みだった（12.3%）、健診に来たかった（38.5%）、ママに言われて来た（20.0%）、パパサロンに来たかった（23.1%）、その他（6.2%）</li> <li>・内容について<br/>良かった（73.3%）、まあまあ良かった（22.8%）、まあまあ良くなかった（3.5%）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度の参加者数は66名であったが、2019年度は91名と増加傾向にあり、パパサロンの認知度や健診や育児に関心のある父親が増えているのではないかと考えられる。また2019年度の参加者数の内訳を比較すると、8月は27名とお盆期間であり多くの父親が仕事を休みで参加しやすかったと考えられる。</li> </ul> |

## 17. 岐阜県恵那市

|   |   |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">地域の特徴</p> <p><b>【面積】</b> 504.24 km<sup>2</sup></p> <p>人口：51,037,510,73人（平成27年10月1日 国勢調査）</p> <p>世帯数：18,106世帯（平成27年10月1日 国勢調査）</p> <p>高齢化率：32.6%（平成27年10月1日 国勢調査）</p> <p>出生数：235人（令和2年度出生数）</p> <p>合計特殊出生率：1.43（平成29年度統計）</p> |  |
| <p style="text-align: center;">事業概況</p> <p>事業開始：合併前の事業を統合して、平成16年の合併後から実施。</p> <p>対象：初めての子どもを出産を迎える夫婦</p> <p>実施頻度：年6回（隔月）</p> <p>募集人数（1回あたり）：現在コロナ禍のため6組12名程度コロナ禍でないときは対象数全員対象</p> <p>担当部署：子育て支援課</p> <p>担当者 職種： 保健師1名</p>                                  |   |

|   |
|---|
| 当日事業実施者 保健師2名、助産師1名、事務職2名   |
| 取り組みの経過   |
| <p>初めてのお子さんの出生を迎えられる夫婦を対象にした学級です。</p> <p>この学級では、助産師によるワークショップ、疑似体験（妊婦体験、赤ちゃん人形による赤ちゃんの抱き方）、沐浴実習などを通じて、夫婦でどのような子育てをしたいか考えていきます。</p> <p>※現在コロナ禍のため沐浴体験のみ実施中です。</p>  |
| 2019年度 取り組み内容（実施状況）   |
| 上記と同様です   |
| 工夫点   |
| <p>コロナ禍で医療機関でも父親が沐浴体験をする機会が、子どもが自宅に来て実際に沐浴をさせるまで無い現状です。</p> <p>父親が沐浴を体験してもらえよう感染対策をしながら継続して実施しています。物品の準備等もみてもらい、産前入院前の準備に役立ててもらっています。</p>   |
| 課 題   |
| 電話申し込み制でしたが、いつでも都合のよいときに申し込めるよう、アプリで入力する形式に変更予定。  |
| 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）  |
| <p>令和2年度参加者アンケートの感想の一部：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沐浴のやり方がわかってよかった。細かいことまでわかった。ていねいでわかりやすかった。</li> <li>・本日はコロナの影響もあり短い時間となってしまいましたが、有意義な時間を過ごさせていただくことができました。できれば、ミルクや授乳方法など詳しく知りたいなあと思いました。</li> <li>・流れを覚えられたのでよかったです。背中に向きを変える時の支え方が難しい。前もって体験できたことで少し不安がやわらぎました。</li> <li>・首が座るまではとても大変だと思いました。3キロの赤ちゃんが結構重いことがわかり、とても参考になりました。</li> </ul> |

## 18. 三重県名張市

|  |   |
|--|---|
| 地域の特徴  |  |
| <p><b>【面積】</b> 129.76km<sup>2</sup></p> <p><b>【地勢】</b> 名張市は、三重県の西部、伊賀盆地の南西部にあり、ちょうど近畿・中部両圏の接点に位置しています。山地の多い地勢には新鮮な空気と清らかな水とともに、風光明媚な自然に恵まれています。大阪方面のベッドタウンとして宅地開発が進みましたが、人口増加時の年齢層の偏りが大きく、現在は少子高齢、人口減少が急激に進んでいます。15の地域づくり組織の主体的なまちづくり活動が特徴です。</p> <p>総人口：77,068人（令和3年8月1日現在）</p> <p>世帯数：34,679世帯（令和3年8月1日現在）</p> <p>高齢化率：33.1%（令和3年8月1日現在）</p> <p>出生数：472人（令和元年度）</p> <p>合計特殊出生率：1.36（令和元年度）</p> |  |



### 事業概況

事業開始：2009年（平成21年）5月2日  
対象：父親・祖父・これから父親になる人  
実施頻度：月1回2部制  
募集人数（1回あたり）：5組×2  
担当部署：名張市こども支援センターかがやき  
担当者 職種 人数：保育士 3名

### 取り組みの経過

職場以外のパパ友を作って、楽しく交流したり子育てについての話を気軽にしてほしいという思いから取り組みを始めました。

### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

- 4月「パパ友を作ろう」
- 5月「新聞紙遊び」
- 6月「さつまいもの苗植え体験」
- 7月「サタパパラボ企画 七夕飾り製作&二胡かがやきコンサート」
- 8月「水遊びグッズ作り」
- 9月「体を使って遊ぼう」
- 10月「ミニ運動会」
- 11月「サタパパラボ企画 サツマイモ掘り&児童虐待防止キャンペーンコンサート」
- 12月「クリスマスカード（ポップアップカード）作り」
- 1月「サタパパラボ企画 ロケット作り&かがやきコンサート」
- 2月「手作り楽器でパパコンサート」・・・サタパパ広場でつながったパパ達3人でコンサート
- 3月「親子記念製作&サタパパ大賞」

### 工夫点

- ・さいころトーク（「趣味は？」「子どもが生まれる前と後の変化は？」などのテーマ）を取り入れ、パパ同士の会話のきっかけを作るようにしている。
- ・家庭でも簡単に再現できるようなふれあい遊びや製作遊びを考え取り入れるようにしている。

### 課題

- ・土曜日にパパがお休みではない家庭やシングル家庭の子どもなどは、サタパパ広場のイベントに参加できない。サタパパ広場限定のイベントに「サツマイモ掘り」があり、「パパがいないと参加できないのか？」という声もある。サツマイモ畑が狭くイモ苗も少ないため、どうすればよいか検討中である。

### 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

- ・パパがサタパパ広場に参加することで、ママは一人でゆっくり過ごす時間ができるなど、ママのリフレッシュにつながる。
- ・パパ同士の横のつながりが生まれ、趣味の音楽を通して活動が広がり、かがやきでコンサートをしていただいた。
- ・パパ同士が子どもへの思いや子育ての考え方などを話す中で、そばで聞くママが「パパがそんなふうに考えていたなんて知らなかった！」と新たな発見をし、夫婦の会話のきっかけにもなったようである。
- ・サタパパ広場で覚えたふれあい遊びを、家庭でパパと子どもが二人で楽しんでいた。

19. 三重県四日市市

|  |   |
|--|---|
| 地域の特徴  |   |
| <p>【位置】<br/>東経136度38分 北緯34度57分</p> <p>【面積】<br/>206.52平方キロメートル</p> <p>【広がり】<br/>東西最長23.76km 南北最長18.20km</p> <p>【地区数】 24</p> <p>総人口世帯数：310,319人（令和3年7月1日現在）<br/>高齢化率：25.8%（令和3年4月1日現在）<br/>出生数：2,287人（令和元年12月現在）<br/>合計特殊出生率：1.45（令和元年）</p>    |    |
| 事業概況   |   |
| <p>事業開始：平成22年度<br/>対象：4歳までの子どもをもつ父親（プレパパ含む）<br/>実施頻度：年5回程度<br/>募集人数：20人程度（全回を通して出席）<br/>担当部署：四日市市こども未来課<br/>担当者：事務職1名</p>  |   |
| 取り組みの経過  |   |
| <p>・父親が子育てする上で必要な知識を学ぶこと、講座を通じたパパ友づくりを目的に、連続講座として、平成22年度に「父親の子育てマイスター養成講座」をスタート。以後、毎年実施しており、令和2年度末時点での修了生は167名。</p> <p>・また、平成26年度から、市内施設において、子育て団体も参加する”よかパパフェスティバル”を毎年実施している。</p>   |   |
| 2019年度 取り組み内容（実施状況）  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講人数 18名、うち修了生16名</li> <li>・講座回数 公開講座 1回、連続講座 7回</li> <li>・実施内容<br/>子育て全般に関する講演、料理講座、マナー教室、救急講座、男性保育士会による子どもとのふれあい遊び、受講生によるプレゼンテーション、マイスター認定式</li> </ul> <p>*養成講座とは別に、10周年記念イベント”平成APPYよかパパ”を開催。</p> |  |
| 工夫点  |   |
| <p>・講師による講演や実技、受講生のワークのほか、”パパトーク”の時間を設けて、受講生同士のコミュニケーションを促進し、交流を図っている。</p> <p>・市民協働事業として、市民団体と協働して養成講座の企画、運営を行っているため、綿密に打ち合わせを行い、可能な限り団体の意見を取り入れるようにしている。</p>  |   |
| 課題   |   |

【広報】講座の存在を知らないという声がある。

⇒民間事業者や市公式フェイスブックで周知

【市民団体の後継者不足】協働で企画運営に携わる市民団体のメンバーが固定化してしまう。

【講座回数等の設計】受講生の負担にならないよう実施回数、時間を考慮しつつ、受講生同士が十分なコミュニケーションをとれる内容にする、そのバランスが難しい。

取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

- ・受講後、子育てや家庭に対する意識が変わった。妻の意見をきくように心がける姿が見られる。
- ・講座を通してパパ同士がつながり、一緒に市内の行事に出かけたりして受講後も交流を深めている。
- ・本講座修了後、修了生の有志が”よかパパ相談員”として、市内の子育て施設で父親の子育て相談を行っており、講座受講後も先輩パパとして地域で活躍している。
- ・年々、意識の高い父親が受講するようになってきている。今後も本講座を継続して実施することで、父親が楽しく子育てする気運がより高まることを期待する。

～・～・～受講生の声～・～・～

- ・家族への接し方が変わり、以前より家族とよく話すようになった。
- ・子どもとの接し方が分からなかったが、ふれあい遊びをきっかけに、子どもと楽しく遊べるようになった。

## 20. 兵庫県西脇市

### 地域の特徴

【面積】 132.44K m<sup>2</sup>

【地勢】

西脇地区、津万地区、日野地区、重春地区、野村地区、比延地区、芳田地区、黒田庄地区からなり、兵庫県のほぼ中央部、東経135度と北緯35度が交差する

「日本列島の中心」に位置している。

総人口世帯数：17,268（令和3年7月1日現在）

高齢化率：33.62%（令和3年7月1日現在）

出生数：210人（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

合計特殊出生率：1.68%（平成27年度）



### 事業概況

事業開始：平成26年度（別紙1に年度別の状況を作成しています。）

対象：次世代（中・高生）、現世代（子育て中）、祖父母世代（自身の子育てが一段落した人）、多世代、支援者（保育士、教諭、ボランティア、子育て支援施設職員など）

実施頻度：次世代5回、現世代4回、祖父母世代3回、多世代1回、支援者研修会1回 計14回

募集人数（1回あたり）約30人

担当部署：西脇市都市経営部茜が丘複合施設

担当者 職種：一般事務職員 人数：1～2人

### 取り組みの経過

西脇市では、平成26年度に少子化対策事業として、NPO法人ファザーリング・ジャパン・関西に委託。翌平成27年度も引き続き委託した。ライフデザインハンドブック、西脇市父子手帳作成。

平成28年度以降は、委託せずに実施。親子参加型イベント（パパクエスト）のみ委託。

### 2019年度 取り組み内容（実施状況）

#### ◎3世代パパ・ママ育て事業講座として

次世代講座：市内3中学校、市内3高等学校（内1高校は、2部制）で7回 569人受講

現世代講座：8回 278人受講。（内5回は、男女共同参画センターと合同開催）

祖父母講座：3回 48人受講。

支援者研修会：1回30人受講。

#### ◎中高生を対象に西脇市ライフデザインハンドブックを配付。

#### ◎妊娠届時こども福祉課で西脇市父子手帳を配付。

### 工夫点

次世代講座では、各学校の生徒の状況等に合わせた講師を学校と調整して実施した。また、西脇市の子育て事情に合わせた講師選びを心掛けた。

教授・医師・社会保険労務士・臨床心理士等専門的な講師に加え、地域で活躍されている方にお世話になるなどバランスを取りながら開催した。

### 課題

講座やイベントに参加される顔ぶれが定着してきている。孤立、孤独な子育て家庭をより把握し、多くの家庭が、誘い合って、参加したり、支援しあえる関係づくりができるようにしていきたい。

### 取り組みの評価（参加者からの評価を含む）

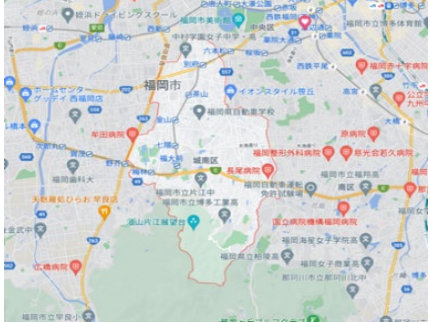
◎次世代講座：自身の将来について考える（ライフデザイン）機会を提供することができた。また、学生たちからは、「結婚や子育てについても関心が持てる様になった。」「将来に向けて、目標をもって学生生活を過ごしていきたい。」という感想が多くあった。

◎現世代：子育てについての様々な知識を身に付けるとともに、同じ世代で情報交換するなど地域での繋がりを持つことができた。参加された保護者からは、「出生数が少なくなり、地域で子ども同士遊ぶことが少なくなってきた。親子での遊びや同じ子育て世代が、参加できる講座やイベントがあると嬉しい。」という声が多くあった。

◎祖父母世代：子育てが一段落した祖父母世代は研修により更に知識を得て、地域での子育て支援者としてのスキルを向上させることができた。参加者からは、「昔と今の子育て環境の違いを知り、子育て地域での子育て支援や、孫育てに生かせる知識を身に付けることができた。」と満足していただけた。

◎子育てを通して、多世代が集うきっかけづくりになった。また、西脇市での子育てを楽しみと感じてくれる家庭や将来西脇市で子育てをしたいと思う生徒が増えた。

21. 福岡県福岡市城南区

|   |   |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">地域の特徴</p> <p>【面積】 15.99 km<sup>2</sup><br/>         【地勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・城南区は、福岡市のほぼ中央部に位置し、都心に近く自然に恵まれた住宅・文教地区。</li> <li>・交通体系の整備が区の急務であったが、2005年に地下鉄七隈線が開通し、福岡外環状道路、都市高速5号線が整備された。</li> <li>・戦後、大規模な住宅団地の建設が進み、人口密度も高く、今後は急速に高齢化が進行すると見込まれている。</li> <li>・区内には2つの大学があり、学生をはじめとする単身者が多く、人口移動も多いのが特徴。</li> </ul> <p>総人口：126,238人(2021年7月末現在)<br/>         世帯数：64,055世帯(2021年7月末現在)<br/>         高齢化率：25.3%(2021年7月末現在)<br/>         出生数：931人(2019年)<br/>         合計特殊出生率：1.33(2015年※福岡市)</p> <p>(注) 合計特殊出生率は、城南区ではなく福岡市の値</p> |  |
| <p style="text-align: center;">事業概況</p> <p>事業開始：2016年度<br/>         対象：父親になる予定の方、1歳未満の父親<br/>         実施頻度：年3回<br/>         募集人数(1回あたり)：20人<br/>         担当部署：福岡市城南区保健福祉センター地域保健福祉課<br/>         担当者(職種)：保健師(人数)4人</p>  |   |
| <p style="text-align: center;">取り組みの経過</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の母子保健活動を通し、育児負担や不安を抱える母親の傾向として、夫婦関係に課題を抱えている場合が多くみられ、一例として夫婦間でのコミュニケーションのずれが母親の育児不安やストレスのきっかけになっていることがわかった。このような背景から父親へ直接アプローチをすることが必要と考え、2016年度から「夫婦で協力した育児」の促進を目指し、夫婦間コミュニケーションを主軸とした父親向けの講座を開始。</li> <li>・開始後は、参加数が伸びないことや交流会の満足度が低い等の課題に対し、アンケート結果や参加者の反応をふまえ、体験型の内容を増やす(2016年度2回目～)、交流時に先輩パパをファシリテーターとして配置する(2018年度～)等、適宜、内容や実施体制の見直しを行った。</li> <li>・2018年度からは、保健福祉センターで実施する講座に加え、福岡大学が同様の目的で行っていた妊婦とそのパートナー向けの講座を合同開催し、お互いの特徴を生かした内容で実施した。</li> </ul>                                       |   |
| <p style="text-align: center;">2019年度 取り組み内容(実施状況)</p> <p>1. 講座、交流会の開催<br/>         (1) プレママパパのワークショップ(福岡大学と合同開催)</p>   |   |

|   |
|---|
| <p>【内容】1先輩ママからの出産・子育ての体験談、赤ちゃんとのふれあい体験 2夫婦コミュニケーションの講話<br/>3子育て窓口紹介 4プレパパ向け交流会 5プレママ向け講話「小児科かかりつけ医を<br/>みつけよう、予防接種」<br/>※1～3は夫婦で参加、4、5は夫婦が分かれて参加</p> <p>【対象】妊婦とそのパートナー（プレママパパ） ※プレママのみの参加も可<br/>【回数】年2回（6月、11月） 【参加人数】6月：22人（夫婦9組）、11月：20人（夫婦8組）</p> <p>(2) 父親同士の交流会<br/>【内容】イヤイヤ期の付き合い方の講話と交流会（交流会は、父親と母親は別で実施）<br/>【対象】乳幼児の父親または両親（託児付）<br/>【回数】年1回 【参加人数】19人（父親13人、母親6人）</p> <p>2. 父親の子育てを応援する会議の開催<br/>【内容】父親の育児参加や夫婦コミュニケーションの大切さを広く啓発するための方法等の検討<br/>【回数】年5回 【参加者】NPO法人ファザーリング・ジャパン九州、パパスクール城南受講者</p> |
| <p style="text-align: center;">工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座開始当初から、NPO法人ファザーリング・ジャパン九州の協力を得て講座内容を一緒に検討したことで、父親の立場からの話や良好な関係を築くための具体的方法を提示することができ、参加者が理解しやすく、共感できる内容となった。</li> <li>・ 先輩パパの参加等で父親同士がスムーズに交流できるようサポートし、父親が気持ちを表出したり、悩みを共有し、エンパワメントされる機会とした。</li> <li>・ 参加動機は父親自身の希望よりも母親からの勧めの方が多かったことから、講座受講に消極的な父親を誘い出す工夫として、母親向けの内容も同時開催（託児付）し、夫婦で一緒に参加できるようにした。</li> </ul>   |
| <p style="text-align: center;">課題</p> <p>講座参加が難しい父親もいることから、講座以外の方法で継続したアプローチを行っていく必要がある。</p> <p>参加者からは「妻からのダメ出しが多い」等の意見も出たことから、父親母親両方へコミュニケーションを良好にするための情報提供や啓発の継続が必要。</p> <p>⇒2020年度に、NPO法人ファザーリング・ジャパン九州、パパスクール城南受講者と一緒に啓発リーフレットを作成し、母子健康手帳交付時に配付開始。</p> <p>父親同士が継続して交流できる場の検討</p>  |
| <p style="text-align: center;">取り組みの評価（参加者からの評価を含む）</p> <p>1. 講座をきっかけに、夫婦間のコミュニケーションを深めたり、実際に家事や育児の協力を行う等の参加者の行動変容につながった。</p> <p>プレママパパからのアンケート結果では、今後取り組みたい内容として、「夫婦のコミュニケーションを大切にしたい」や「言葉選びに気を付けたい」等があげられており、行動変容が期待できた。</p> <p>参加者に受講前後に行ったアンケート結果では、受講前後の行動変化として、「妻の話をよく聞くようになった」「家事や育児をするようになった」の割合が高くなっていた。</p> <p>2. 父親同士の交流やNPO法人ファザーリング・ジャパン九州の講話を通して、父親としての喜びや役割を再認識する機会となった。</p>   |

父親同士の交流会のアンケート結果では、「日頃他の父親と話す機会がなかったので交流できてよかった」、「それぞれ違った悩みをかかえていることや、子育てに対する考え方を直接聞いて参考になった」との意見が多く、参加した父親同士で気持ちの共有や情報交換ができ、育児をすることへ前向きになるきっかけになっていた。

講座後に参加者が運営するLINEグループが開始されており、父親が積極的に情報や交流の場を求める様子がみられた。

